**問題1**

今回の検定テーマは「家康公の平和外交　～世界との出会い、日本の大航海時代～」です。家康公が生まれた時代、世界では大航海時代が始まっていました。この大航海時代の大きな出来事として知られるのは、アメリカ大陸の発見ですが、この新大陸を発見した探検家は誰だったでしょうか？

(1) ヴァスコ・ダ・ガマ　(2) ジェームズ・クック
(3) コロンブス　(4) マゼラン

**解説**　イタリア人のコロンブスは、若い頃からマルコ・ポーロの「東方見聞録」などを読み、大西洋航路を西に進めば中国、日本などに到達できると考えていました。当初はポルトガルの国王に航海の請願をしましたが認められず、後にスペインのイザベル女王から許可を得て、1492年サンタマリア号など3隻の船でパロス港(スペイン)を出港、キューバ島やハイチ島などのバハマ諸島にたどり着いたのです。コロンブスはこれらの地域をアジアと判断し女王にも報告をしました。ここからスペインによる植民地計画が始まり、後に日本に影響を及ぼすようにもなったのです。

コロンブスの像
(ジェノバ／イタリア)

解答…(3)



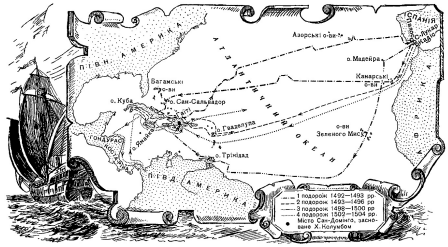


**問題2**

1492年、アメリカ大陸を発見した前問の探検家は、そのとき、発見した土地はアジアの一部だと思い違いをしていました。アジアのどこだと思われていたのでしょうか？

(1) インド　(2) 中国
(3) 日本　(4) ペルシャ

**解説**　コロンブスは、発見した地はアジアの一部であると思い込み、サンタマリア号に乗船させて連れ帰った現地民を「インディオ」と呼んでいたことが記録に残されています。つまりインドに到達したと判断したのです。以後、ドミニカやジャマイカなどにも到達し、盛んに入植活動が行われましたが、原住民たちの反乱にも遭遇し、最終的にはスペイン本国からも非難されてしまう結果となりました。このコロンブスの発見により、この海域(中部アメリカ、カリブ海周辺)の諸島を「西インド諸島」と呼んでいるのです。



*Карта плавань Христофора Колумба.*
コロンブスルート(16世紀)

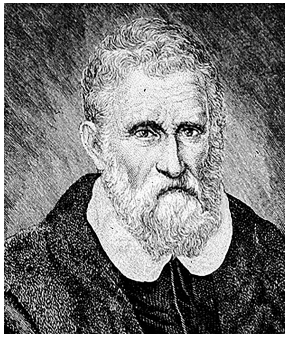
解答…(1)

**問題3**

大航海時代が始まる以前の13世紀末、アジア旅行記「東方見聞録」の中で、日本はどんな国としてヨーロッパの人々に紹介されたでしょうか？

(1) 黄金の国　　(2) 武士の国
(3) 不老長寿の国　　(4) 楽園の国

**解説**　ベネチアの商人マルコ・ポーロの東方旅行(1271～95)の体験談を、作家であったルスティケロが旅行記として著したのが「東方見聞録」です。マルコ・ポーロは、小アジア、イランなどから長安(西安)を経て中国北辺を横断し、モンゴルでフビライ・ハンに謁見してそのまま元朝に仕えました。「東方見聞録」には旅行地域(中国やアジア諸国)の風俗、慣習のほかに、日本をジパングの名称で「黄金の国」として初めてヨーロッパに紹介しました。ヨーロッパの人々が憧れる「黄金の国」ジパング。日本への航路を発見することは、コロンブスの航海の大きな目的のひとつであり、結果としてアメリカの発見につながったと考えられています。



**マルコ・ポーロの肖像画**
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…(1)



**問題4**

前問の「東方見聞録」の著者は誰でしょうか？

(1) コペルニクス
(2) 三蔵法師
(3) マルコ・ポーロ
(4) レオナルド・ダ・ヴィンチ

**解説**　マルコ・ポーロは「東方見聞録」の中で日本を「黄金の国」として紹介しました。しかし、実はマルコ・ポーロ自身は日本を訪れていません。「東方見聞録」には、日本について「莫大な金を産出し、宮殿(寺院)や民家は黄金でできているなど財宝に溢れている」といった記述がありますが、これは中国の役人から聞いた話をもとにした内容です。中尊寺金色堂の話が拡大解釈されたのではないかということや、岩手県あたりで金が採掘されていたこと、また中国への使節が砂金を献上していたことなどがその理由と考えられています。

**中尊寺金色堂(岩手県平泉町)**

解答…(3)

**問題5**

家康公が生まれ育った戦国時代。一般的に戦国時代の始まりとされる、1467年に起こった戦いは何でしょうか？

(1) 応仁の乱　(2) 承久の変
(3) 平将門の乱　(4) 南北朝の争乱

**解説**

「戦国時代」と呼ばれるのは、幕府の権威が失墜し、全国の大名や在地の武士たちが、土地の奪い合いや利権の獲得のために争いを繰り返した時代を意味しています。一般的には、応仁元年(1467)に京都で勃発した「応仁の乱」から始まり、慶長５年(1600)の「関ヶ原の戦い」まで、あるいは慶長８年(1603)の「江戸幕府開府」までの説の他、家康公が平和社会の到来を告げる「元和偃武」を宣言した、元和元年(1615)までの149年間を指す説など諸説があります。家康公は天文11年(1542)、戦国時代の真中に生まれ、その生涯は戦国乱世の中で戦い続けた厳しいものでした。

応仁の乱勃発地碑(京都市上京区)







**問題6**

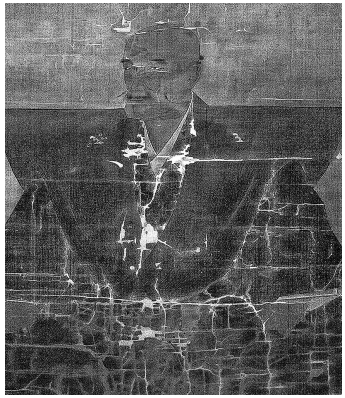
特に戦国時代にみられるようになった、この時代の特徴的な社会風潮とは何でしょうか？

(1) 下剋上　(2) 人質制度
(3) 殉死　(4) 無礼討ち

**解説**

「下極(剋)上の基、神威を失うべきノ条、以ての外の次第なり」

応仁の乱勃発の最中、興福寺大乗院門跡が自衛する大和布留郷の民の動きを嘆いて遺した記録です。税に苦しむ農民などが荘園領主に対して起こした一揆のことを表しているのでしょう。下剋上という言葉が記されていますが、地位の下の者が上の者をしのぎ、あるいはとって代わることを意味する語として登場してきます。このような動きを「もっての外」のこととして嘆いているのです。戦国時代はこれまでの秩序を破壊するものでしたが、同時に身分の上下をも打ち壊す大きな社会変革でもあったのです。

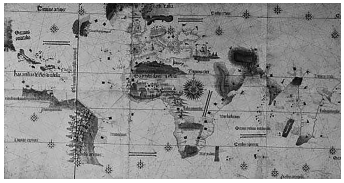

下剋上の申し子「斎藤道三」像
(常在寺／岐阜市)
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

**問題7**

世界に先駆け大航海時代をリードする２つの国は、1494年、「トリデシリャス条約」を結び大西洋で世界を東西に二分割する植民地境界線を定めました。この２つの国とは、どことどこでしょうか？

(1) イギリスとオランダ　(2) イギリスとスペイン
(3) オランダとポルトガル　(4) スペインとポルトガル

**解説**　1494年６月、スペインのトルデシリャスでスペインとポルトガル間に結ばれた海外領土の分割条約をトルデシリャス条約と呼んでいます。この条約により、1493年にローマ教皇アレクサンデル６世の定めた子午線による植民地分界線は西方へ移動し、1500年、ポルトガルの航海者カブラルの到達したブラジルをポルトガル領とする根拠となったのです。1529年には新たにサラゴサ条約として改訂され、境界線の適用は大西洋に限るとされましたが、これによりポルトガルのアジアにおける優位が決定的となりました。ただ16世紀後半以降、イギリス、フランス、オランダなどが台頭し、イベリア半島の両国が制海権を失っていく過程で有名無実化していったのです。



カンティーノ地図ポルトガル領
（16世紀初頭）



解答…（4）

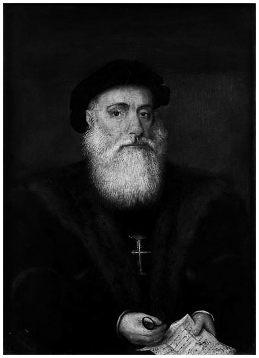


**問題8**

1498年、大西洋を南下し、アフリカの南端を回りインドに到達するインド航路を発見したポルトガルの探検家は誰でしょうか？

(1) ヴァスコ・ダ・ガマ　(2) ジェームズ・クック
(3) コロンブス　(4) マゼラン

**解説**　ヴァスコ・ダ・ガマはポルトガルの航海者です。下級貴族の子としてポルトガル南部のシネスで生まれました。1497年インドに向かうポルトガル船隊の司令官となり、南アフリカの喜望峰を経由してモザンビークに到達、そこでアラブ人の案内人を雇い、翌年インドのカリカットに到達しました。その結果、ポルトガルはカリカットを通じて香辛料や綿などを入手できるようになり、大きな利益を生んだのです。1502年にもふたたび司令官となってインドに赴きましたが、これはポルトガルの進出を恐れたイスラム商人たちの抵抗を抑えるためでした。晩年もインドに副王として赴きますが、その地で病死しています。



ヴァスコ・ダ・ガマ肖像画
（アンティガ国立美術館蔵／ポルトガル）
出典：ウィキメディア・コモンズ、
フリーメディアリポジトリより

解答…（1）

**問題9**

14世紀後半から16世紀前半にかけて、明(中国)が行っていた「海禁政策」で誤っている説明はどれでしょうか？

(1) 海賊を取り締まり、海上秩序を回復することを目的とした。
(2) 民間商船の海外渡航や交易を禁止した。
(3) 冊封関係を持つ諸国の国王からの朝貢船との交易は許可した。
(4) 海外との全ての交易を固く禁止した。

**解説** 海禁とは、海上の交通や貿易などに制限を加えることを表しています。国内の治安を保ち、密貿易を取り締まり、外国との紛争を避けるのを目的としていました。中国では、４世紀以来、何度か海禁政策がとられてきましたが、制度として完成したのは明王朝初期のことと考えられています。明の太祖 朱元璋は1371年、倭寇の防御策として「下海通蕃」(外国との交易や渡海)の禁令を出し、貢船(明王朝への献上船)とその積載する貨物の交易は許すが、民間の商船には認めないことにしました。この禁令は厳しく実施されましたが、密貿易が止むことはありませんでした。

明の太祖「朱元璋」肖像画
(故宮博物館蔵／台湾)
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

解答…(4)





**問題10**

大永４年(1524)、家康公の祖父にあたる松平清康は本拠を岡崎に移しました。岡崎に移る前に本拠としていたのはどこだったでしょうか？

(1) 安城城　　(2) 岩津城
(3) 大給城　　(4) 刈谷城

**解説** 岩津を本拠としていた松平信光は、寛正６年(1465)に起きた額田郡一揆を鎮圧して以降、西三河を中心とする支配権を拡大しました。さらに、安城・岡崎への進出を果たし、安城城を四男親忠に与えます。親忠の子・長忠は、今川氏と伊勢氏の岡崎攻略(永正三河の大乱)を退けると、松平一族の実権は安城家に移り、以来、安城家が宗家としての地位を認められるようになりました。孫にあたる清康は、大永４年(1524)岡崎の山中城を攻めこれを陥落させると(※大永６年説あり)、本拠地を安城から岡崎に移します。後に現岡崎城の位置に本拠を移し、家康公もここで生まれることになるのです。清康が建立した大樹寺の多宝塔心柱には「世良田次郎三郎清康 安城四代岡崎殿」と記されています。

安城城址(安城市)

解答…(1)

**問題11**

第７問の「トリデシリャス条約」を結んだ２つの国は、大西洋を西と東に進んだ結果、地球の反対側のアジアで出会うことになり、1529年、日本の東部を南北に走るもう一つの境界線を定めました。これにより、基本的にアジアの領有権を得たのはどの国でしょうか？

(1) イギリス　(2) オランダ
(3) スペイン　(4) ポルトガル

**解説**　ヴァスコ・ダ・ガマが「キリスト教の布教と香料」を提唱して以来、アジアにはきわめて活発な地域間の交易が成立していました。しかしサラゴサ条約の締結により優位に立ったポルトガルは、圧倒的な火器の使用により、イスラム教徒などの抵抗を廃しつつアジア市場に割り込むことになったのです。インド洋西部に進出したポルトガル人は、16世紀初頭のうちにインド西海岸のゴアなどを占領しました。またマラッカ海峡を制圧後はマカオ（中国）を拠点に中国や日本の交易も活発に行うようになったのです。

インドのゴアに残る教会群（ゴア州）



解答…（4）



**問題12**

ローマ教皇が二つの国に世界を二分割する許可を与えた最大の条件とは何だったでしょうか？

(1) 新領土でのキリスト教の布教
(2) 異教徒の撲滅
(3) 新領土獲得で得た利益の教会への寄付
(4) 世界の様々な出来事や産物、風習等の記録と報告

**解説**　スペインとポルトガルの二国間の植民地における衝突を避けるために、ローマ教皇の仲裁を受けながら定められたのがトルデシリャス条約でした。この基本となった世界分割ラインが「教皇子午線」と呼ばれるものです。このラインに納得しなかった両国が協議を重ねてトリデシリャス条約が締結されました。その際、ローマ教皇が両国に求めたのは、新開地におけるキリスト教の布教でした。これには、急成長する反カトリック（＝プロテスタント）勢力の活動にローマ教会が危機感を抱いていたという背景がありました。

プロテスタントが誕生した宗教改革の中心人物
**マルティン・ルター肖像画**
**（ウフィツィ美術館蔵／イタリア）**
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

解答…（1）

**問題13**

天文11年(1542)、家康公誕生。家康公は松平家の何代目の当主として誕生したでしょうか？

(1) 3代　　(2) 6代
(3) 9代　　(4) 12代

**解説**　松平宗家は初代親氏から始まり、家康公で九代目とされています。岡崎市の大樹寺には松平八代の墓に加えて家康公の墓が建てられていますが、もともとの「松平廟」にはありませんでした。これは家康公の時代から徳川姓に代わったという事情も考えられます。また松平宗家というのは、常に嫡子が相続したわけではなく、当主が後継を決めたり、一族の中から有力な者が認められて相続して行きました。例えば、二代泰親は親氏の子ではなく弟であったと考えられています。また、四代親忠は初めから当主であったのではなく、あくまでも岩津松平家が宗家であって、安城の二代目に当たる長忠が宗家になった時点で四代目として位置付けられたとも考えられます。

松平八代の墓(大樹寺／岡崎市)



解答…(3)



**問題14**

家康公の母、於大の父は誰でしょうか？

(1) 足助城主　鈴木重政
(2) 勝幡城主　織田信秀
(3) 刈谷城主　水野忠政
(4) 田原城主　戸田康光

**解説**　刈谷城主の水野忠政は、当初は尾張国の緒川城(愛知県東浦町)を拠点に、知多半島北部をその支配下に置いていました。天文2年(1533)には、三河国刈谷に新城(刈谷城)を築き本拠地を移したと考えられています。つまり、領地拡大の過程で尾張と三河をまたぐ領主となったのです。そのため、織田信秀の西三河進攻に協力しつつも、他方では岡崎城主　松平広忠や、形原城主 松平家広などに娘を嫁がせることによって、領土の保全を図っていたのでしょう。もともと、水野家と松平家にはこれまでにも姻戚関係があり、於大の結婚が政略的なものであったことは取り立てて珍しいことではありませんでした。

水野忠政(右)像(乾坤院／東浦町)左は忠善

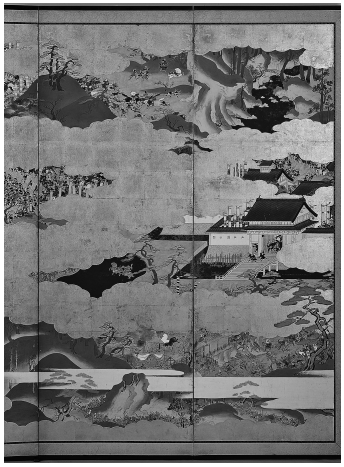
解答…(3)

**問題15**

家康公が生まれた翌年、海外から日本の種子島に初めてもたらされたものは次のうちどれでしょうか？

(1) 火縄銃　(2) 仏教
(3) 木綿　(4) 羅針盤

**解説** 家康公が生まれた翌年の天文12年(1543)、種子島に火縄銃がもたらされました。さらにこの数年後には、キリスト教の布教が日本でも開始されているように、家康公の生涯は、西洋と日本が初めて出会った時期に、ほぼそのまま重なります。特に家康公の後半生において、貿易とキリスト教への対応は大きな課題でした。国内での合戦に注目されがちな家康公の事蹟ですが、265年におよぶ「徳川の平和」創出を考える上で、外交政策も欠かすことができない重要な功績と言えるでしょう。



**長篠合戦図屏風(摸本、部分)**
出典：ColBase国立博物館所蔵品統合検索システム



解答…(1)



**問題16**

天文18年(1549)、日本にキリスト教を伝えたとされる宣教師 フランシスコ・ザビエルが上陸した地はどこでしょうか？

(1) 鹿児島　(2) 仙台
(3) 対馬　(4) 平戸

**解説** フランシスコ・ザビエルは天文18年(1549) 8月に鹿児島に上陸しました。ザビエルの書簡によれば、「風により日本の他の港に寄ることができず、聖信のパウロ(日本人ヤジロウの洗礼名)の郷里である鹿児島にやって来ました。ここで私たちは彼の親戚や親戚でない人たちすべてより、心からの歓迎を受けました」と、ザビエル一行が歓待された様子が記されています。後に領主である島津貴久にも謁見し、ポルトガル人の品の高さを称賛されると、「日本人が数ある民族の中でも最も優秀であり理性的である」と感想を述べたとあります。こうしてキリスト教が受け入れられ、この後、九州一円に信者が拡大していったのです。

**ザビエル上陸記念碑(鹿児島市)**

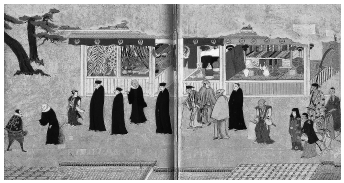
解答…(1)

**問題17**

日本に訪れたフランシスコ・ザビエルが属していたイエズス会とは、どのような会だったでしょうか？

(1) カトリック(旧教)教会に属する男子の修道会
(2) カトリック(旧教)教会の日本支部
(3) プロテスタント(新教)教会の中で福音派と呼ばれる会派
(4) プロテスタント(新教)教会の極東部会

**解説** 16世紀にイグナティウス・デ・ロヨラによって創立された、カトリック教会に属する男子修道会をイエズス会と呼んでいます。日本では耶蘇会とも呼ばれていました。もともとイエズス会はプロテスタント主義の考え方に反対するために創立されたのではありませんでしたが、その当時起きていたルターやカルビンの宗教改革に対して、カトリック復興のために教会の最前線で闘ったのです。このため、16～17世紀のヨーロッパの大部分がカトリック信仰にとどまることになりました。また、当時新しく発見された東洋やアメリカ大陸にもキリスト教を布教するために貢献したのです。ザビエルはロヨラの仲間でもあり、献身的な布教活動を行ったと伝えられます。



イエズス会修道士たち(黒服)
灰服はフランシスコ会(南蛮屏風より抜粋)



解答…(1)



**問題18**

日本にキリスト教が伝来した天文18年(1549)、8歳の竹千代(家康公の幼名)に起こった出来事は何だったでしょうか？

(1) 母の於大が離縁され生き別れとなった。
(2) 父 広忠が戸田康光の娘 真喜姫と再婚し継母を迎えた。
(3) 今川家に人質に出されるはずが織田家の人質となった。
(4) 人質交換により、織田家の人質から今川家の人質となった。

**解説** 家康公の父である松平広忠について、定説では「天文6年に岡崎城主になってのち同18年に没するまでの間ずっと岡崎城主としての地位を保ち続けた」ということになっています。しかし近年では「岡崎城は織田信秀に奪われ織田方に属していた」「織田と今川が共謀して岡崎を攻めた」等々、様々な論説が存在しています。竹千代の人質交換が行われたのは天文18年(1549)であり、織田方から今川義元の駿府に移されたのは確かです。ただしこの件についても「人質」ではなく、あくまでも「保護」「客人」扱いであったとする見方もあります。

広忠廟(松応寺／岡崎市)

解答…(4)

**問題19**

天文20年(1551)元旦、今川の家臣たちが年賀のため今川館に列座しているなかで、10歳の竹千代が座を立って縁先に行き、一同が驚く行動をしたと伝わりますが、何をしたのでしょうか？

(1) 庭に小便をした　(2) 酒を飲みほした
(3) 鷹を庭に放った　(4) 池に飛び込んだ

**解説**　駿府に送られた竹千代の生活については、江戸時代に記された伝承話がほとんどです。「東照宮御実記」によれば、「(太守義元の御前の中に座る竹千代を見て誰かが)いかなる人の子ならんといふに 松平清康が孫なりといふ者あれど信ずる者なし 其時君御座をたち縁先に立せられ なにげなく便溺し給ふに 自若として羞怎のさま おはしまさず」と記されています。重臣たちの中でも気後れすることなく、泰然自若としていた様子が描かれています。同様の伝承話としては、側近の鳥居元忠に「百舌鳥を鷹のように躾けよ」という無理難題を命じ、できなかった元忠を軒先から足蹴にして突き落としたというものもあり、「屈託ない、腕白で元気な少年」(「徳川家康と其周囲」柴田顕正)という姿が浮かび上がってきます。

竹千代君像
(JR静岡駅前)



解答…(1)

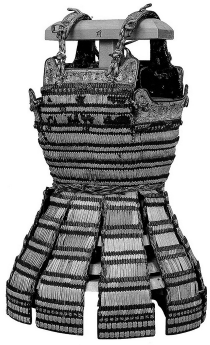


**問題20**

弘治元年(1555)、駿府の浅間神社で元服の儀式を行った竹千代は、今川義元から元の一字を賜り、なんと名乗ったでしょうか？

(1) 元忠　(2) 元親
(3) 元信　(4) 元康

**解説**　幼名から改名した最初の名は「元信」です。これは加冠親でもあった今川義元の一字を賜ったものです。正しくは松平当主の通称でもあった「次郎三郎」を付け、次郎三郎元信と名乗りました。17歳での初陣時には「蔵人佐元康」と名乗っており、尊敬する祖父 清康の一字に変えたとされています。私称ですが「蔵人佐」を官職名としたのは、曾祖父である松平信忠が「蔵人佐」を名乗っており、そこから取ったのではないかと推測されています。父の広忠も祖父の清康も官職名がなかったからです。これは義元による計らいであることが考えられ、人質としての扱いではなかったのではないかと考える一つの理由です。



元服の際、義元から贈られた腹巻
(静岡浅間神社蔵／静岡市)

解答…(3)

**問題21**

永禄3年(1560)、今川軍の先鋒として尾張 大高城の兵糧入れに成功した家康公ですが、桶狭間にて今川義元が戦死。家康公が退却した松平家の菩提寺はどこでしょうか？

(1) 大樹寺　(2) 法蔵寺
(3) 妙源寺　(4) 龍海院

**解説** 大樹寺は松平宗家の菩提寺であり、松平廟には歴代当主の墓が並んでいます。桶狭間の合戦で義元が討死をし、大高城で窮地に立たされた元康(後の家康公)は、そこからの脱出を図りました。当初は岡崎城に入る予定であったのを、その時点ではまだ今川氏の重臣が城に残っており、逃げ帰っていくことができなかったと伝えられています。元康一行は矢作川を渡り、菩提寺である大樹寺に逃げ込んだのです。当時の大樹寺は数百人の学僧が学ぶ大寺院であり、広い境内地に十以上の塔頭寺院が建ち並んでいました。元康はここで保護され、一命を取り止めたのです。その際に「厭離穢土、欣求浄土」の法語を教えられ、自分の旗差しにしたと伝えられています。

大樹寺三門(岡崎市)



解答…(1)



**問題22**

永禄6年(1563)、家臣団を二分する「三河一向一揆」が起こりました。当時、一向宗と呼ばれたのは、仏教のどの宗派でしょうか？

(1) 浄土真宗　(2) 天台宗
(3) 日蓮宗　(4) 臨済宗

**解説** 西三河の地域には浄土真宗の寺院が多いことに気がつきます。これは鎌倉初期に親鸞の高弟が矢作(岡崎市)の地で念仏説法を行い、それが多くの人々に受け入れられて幾つかの道場が開かれたことに起因しています。その高弟たちは親鸞が開いた下野(栃木県)の高田専修寺からやってきましたので、真宗高田派の寺院が多く開かれました。しかし応仁元年(1467)、蓮如が大浜(現碧南市)に上陸し、道場(応仁寺)を開いて一向専修念仏説法を行うと、その教えは瞬く間に西三河一円に広がり、高田派から本願寺派に改宗する寺院が増大しました。一揆の中心となったのはその本願寺派寺院だったのです。「一向宗」という呼称は、領主などに反抗する本願寺派を揶揄して呼んだもので、内部では決して使用していなかったとされています。

応仁寺(碧南市)

解答…(1)

**問題23**

フランシスコ・ザビエルと同じイエズス会の宣教師 ルイス・フロイスが特に接近した、有力な戦国大名は誰だったでしょうか？

(1) 上杉謙信　(2) 織田信長
(3) 武田信玄　(4) 徳川家康

**解説** ルイス・フロイスはザビエルと同じカトリック教会イエズス会の宣教師です。永禄6年(1563)、31歳で肥前国の横瀬浦(当時大村領、現在の長崎県西海市)に上陸し、念願だった日本での布教活動を開始しました。翌永禄7年に京都入りを果たしたフロイスは永禄12年(1569)、二条城の建築現場で初めて信長に謁見します。「背は中くらいで、家臣に恐れられていた」という記録が残されていますが、以来、フロイスは信長の信頼を得、いくつかの教会の建造を許可されました。信長にとって宣教師であるフロイスは異教徒という存在の前に、海外の事情や珍しい文物をもたらしてくれる貴重な礼儀正しい外国人としての存在だったのでしょう。

ルイス・フロイス像
(長崎県西海市)



解答…(2)



**問題24**

当時の日本の政情などを詳細に記した「日本史」を著し、本国に送っていた宣教師は誰でしょうか？

(1) アレッサンドロ・ヴァリニャーノ
(2) ジェロニモ・デ・ジェズス
(3) フランシスコ・ザビエル
(4) ルイス・フロイス

**解説** 信長と親しく通じたフロイスは、18回も謁見したという記録が残されています。その間、岐阜や安土の様子などを本国に送っており、大変興味深く読まれたと伝えられています。信長の死後、フロイスは日本での布教活動の歴史と記録を残すよう命じられ、「日本史」の執筆にとりかかりました。その内容は、日本の国の現状から諸地域の風土や習慣まで詳細に記され、信長や秀吉、その他関わった武将たちの様子なども年代順に著されています。内容は誇張や誤解なども散見されますが、地名の読み方や人名の読み方なども含め、貴重な史料として位置付けられています。

宣教師の描いた信長
(三宝寺／天童市)

解答…(4)

**問題25**

日本国内にキリスト教が広まる過程で、幾人かのキリシタン大名が誕生しました。次のなかで、キリシタン大名でないのは誰でしょうか？

(1) 有馬晴信　(2) 大村純忠
(3) 高山右近　(4) 細川忠興

**解説**　ザビエルが鹿児島に上陸し、領主の島津氏から受け入れられたことで、キリスト教は当然のことながら九州を中心に広がりを見せました。特に肥前国の大村純忠は自らが洗礼を受けキリスト教信者になったのですが、このような大名を特にキリシタン大名と呼んでいます。キリシタン大名としては他に同じ肥前国の有馬晴信、豊後国の大友宗麟などが有名です。また高山右近や小西行長、蒲生氏郷など畿内でもキリシタン大名が増えて行きました。細川忠興については妻のガラシャ夫人が敬虔なキリシタンとして有名ですが、本人はキリシタンではありません。

ガラシャ夫人壁画
（玉造教会／大阪市）



解答…（4）



**問題26**

アジアに進出し、1510年にインドのゴアに拠点を置いたポルトガルは、さらに東アジアに進出し、1557年、中国に新たな拠点を置きました。その地はどこでしょうか？

(1) 北京　(2) 香港
(3) 南京　(4) 澳門

**解説**　ポルトガルの東南アジア進出については、1511年には東南アジア交易圏の要衝マラッカを占領して、インドネシア東部のモルッカ諸島（別名「香料諸島」）との交易を開始しています。この地域でスペインとの衝突が発生しサラゴサ条約が結ばれたのです。その後はマカオを拠点として、中国や日本との交易も行いました。ただ、ポルトガルの貿易は、基本的には国営の企業が行っており、いわゆる植民地、領域の支配というよりは、貿易拠点の確保が彼らの方針でした。したがって、アジアの内部、ことにインド内陸部の交易などは、彼らの手中には入らず、ゴアやマカオなどの拠点活動が中心となって行われたのです。

マカオ歴史地区（中国）

解答…（4）

**問題27**

16世紀、アジアに進出したスペインが拠点とした地はどこでしょうか？

(1) アユタヤ　(2) シンガポール
(3) パタニ　(4) マニラ

**解説**　トリデシリャス条約により、スペインのアジア進出はポルトガルから大きく後れを取ることになりました。後にサラゴサ条約が結ばれると、ラインから大きく西に入ったフィリピンについては、1521年のマゼランのフィリピン発見以来、スペインによる植民地化が進められていたこともあり、スペインの進出が認められたのです。これは資源としての魅力に乏しく、ポルトガルもあまり興味を示していなかったということも要因と考えられています。スペインによるマニラを首都とする整備が進むと、そこを中継拠点とした中国との交易が盛んになりました。スペイン領メキシコとマニラを結ぶ大型の交易船はガレオン船と呼ばれ、スペインに大きな利益をもたらすことになったのです。

復元されたガレオン船サン・ファン・バウティスタ号（宮城県石巻市）



解答…（4）



**問題28**

遠江（とおとうみ）を平定した家康公は、元亀（げんき）元年（1570）、居城（きょじょう）を岡崎城から浜松城に移しました。家康公のあと、岡崎城主になったのは誰でしょうか？

(1) 石川数正（いしかわかずまさ）　(2) 酒井忠次（さかいただつぐ）
(3) 本多重次（ほんだしげつぐ）　(4) 松平信康（まつだいらのぶやす）

**解説**　永禄10年（1567）、信康は信長の娘・徳姫（とくひめ）と9歳で結婚しましたが、その一ヶ月後に岡崎城主となりました。元服前の子供であったため、徳川の軍制（三備（みつぞなえ）の制）には含まれず命令系統も明確にされないままであったと考えられます。このことが後々混乱を生むことになったのでしょう。15歳で初陣を果たし、勇猛果敢（ゆうもうかかん）な武将として成長した信康は、三河の国人衆を岡崎城下に呼び寄せ、城主としての振る舞いを見せるようになるのです。深溝（ふこうず）（額田郡幸田町）の松平家忠（いえただ）日記には、東三河旗頭（はたがしら）の酒井忠次配下でありながら、岡崎城の信康に出仕するという二重支配の構造が明確に記されています。この矛盾（むじゅん）に家康公は気づくのですが、信康は言うことを聞かなかったことが信康事件に繋がったのでしょう。

信康廟（清瀧寺（せいりゅうじ）／浜松市）

解答…（4）

**問題29**

元亀元年(1570)、近江「姉川の戦い」で織田信長・徳川家康連合軍が戦った相手は誰でしょうか？

(1) 浅井長政・朝倉義景連合軍　(2) 京極高次
(3) 松永久秀　(4) 六角義賢

**解説**　織田信長は妹婿である浅井長政の謀反を怒り、元亀元年(1570) 6月19日に岐阜を出陣しました。信長は援軍である家康公の軍勢と合わせ、その数およそ3万余といわれ、対する長政も朝倉義景の援軍を求め、その数2万余と数えられています。戦いは6月28日早朝から姉川を挟んだ形で繰り広げられ、初め浅井・朝倉軍が優勢であったが、家康軍の善戦により織田・徳川連合軍の大勝利に終わりました。義景の援軍は越前に敗走し、長政の軍勢も小谷城に逃げ込み、浅井、朝倉両氏滅亡の遠因となったのです。この戦いは徳川氏の記録から「姉川の合戦」と呼ばれていますが、現地では「野村合戦」とか「三田村合戦」などとも呼ばれています。

姉川合戦図屏風より（福井県立歴史博物館蔵）



解答…（1）



**問題30**

元亀3年(1572)、「一言坂の戦い」での本多忠勝の活躍を称賛した言葉に、「家康に 過ぎたるものが二つあり 唐の頭に本多平八」というものがあります。この中にある「唐の頭」とは次のうちどれでしょうか？

(1) 神の使い八咫烏の羽根と伝わる飾り物
(2) チベットなどに生息する牛科の動物ヤクの毛の飾り物
(3) 中国において皇帝など高位の者が着用した冠
(4) 信長から拝領した西洋製の南蛮兜

**解説**　このエピソードは、武田氏の事蹟を記した『甲陽軍鑑』に掲載されています。この当時の家康公は、ようやく三河一国を収め、遠江を巡って武田信玄と争っている時期で、直接、海外と交流ができるほどの存在ではありませんでした。輸入品で貴重な唐の頭を、家康公はどのような経緯で入手できていたのでしょうか。唐の頭は、榊原康政が家康公から拝領した南蛮胴具足の兜の後立に用いられています。また有名な本多忠勝の肖像画にも、唐の頭と思われる黒い毛が、兜の後ろにたなびいている様子が描かれています。

南蛮胴具足（東京国立博物館蔵）
出典：ColBase国立博物館所蔵品統合検索システム

解答…（2）

**問題31**

前問の戦いに引き続き、徳川軍が「三方ヶ原」で激突した戦国武将は誰でしょうか？

(1) 上杉謙信　　(2) 佐々成政
(3) 武田信玄　　(4) 北条氏政

**解説**　元亀3年(1572)、家康公が武田信玄と激突した三方ヶ原の合戦は徳川方の大敗として有名な戦いです。武田信玄が大軍を率いて西上を目指し、その過程での戦いだったというのがこれまでの見方でした。しかし近年は様々な史料などから、信玄はまず三河の支配を考えていたのではないかという説が有力となっています。領国に海を持たない信玄にとって、三河は大変魅力的な土地でした。実際、信玄は北設楽、東三河、そして遠江三方向から三河への侵入を図っています。浜松城は信玄の本隊が攻略を目指したのですが、結局、落城させることができないまま越冬し、東三河の野田まで進出した時に、信玄は落命することになってしまいました。

三方ヶ原合戦錦絵(江戸時代)



解答…(3)



**問題32**

織田信長が南蛮貿易を進めた大きな理由と考えられることは何でしょうか？

(1) キリスト教に深く帰依したため
(2) 外国人を兵士として買い入れるため
(3) 西洋の力を借りて明国に進出するため
(4) 鉄砲に必要な黒色火薬(またはその原料の硝石)を大量に得るため

**解説**　信長の南蛮貿易は鉄砲の入手がその大きな目的でした。数多くの鉄砲を集団で使用し、合戦で生かしたのです。鉄砲そのものは種子島に伝わって以来、国産化が進められ、堺や近江国の国友村などでは数多くの鉄砲鍛冶が従事しました。ただ、射撃に必要な火薬は容易に生産できなかったのです。鉄砲に使われたのは発火力や爆発力の強い黒色火薬です。その原料は硫黄、木炭、硝石ですが、この中で硝石だけは当時の日本ではほとんど生産されていませんでした。そのような理由から、信長だけではなく、鉄砲に目を付けた大名たちはこぞって黒色火薬を求めたのです。

黒色火薬
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

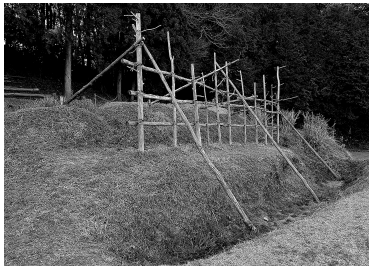
解答…(4)

**問題33**

天正3年(1575)、鉄砲を活用した織田・徳川連合軍は「長篠・設楽原の戦い」で大勝利を収めました。壊滅的な被害を受けた相手の戦国武将は誰だったでしょうか？

(1) 奥平信昌　(2) 木曽義昌
(3) 武田勝頼　(4) 武田信玄

**解説**　長篠・設楽原の合戦は、東三河に侵攻した武田勝頼を織田・徳川の連合軍が撃ち破った戦いで有名です。その際、織田信長が用意した数千丁の鉄砲が効果的に使われ、最強と呼ばれた武田の騎馬隊を撃ち破ったことでも有名になりました。ただこのような記録は後年になって誇張した表現で描かれたものとされており、実際は織田・徳川両軍の築いた圧倒的な陣城(城のように堀や土塁を備えた頑強な陣地)によって武田の攻撃がほとんど機能しなかったためだとも考えられています。いずれにせよ、この戦いで武田氏は大変な損失を被り、信玄以来の多くの重臣たちも命を落としてしまいました。



三段構え＝堀・土塁・馬防柵
(設楽原古戦場／愛知県新城市)

解答…(3)





**問題34**

天正7年(1579)、武田氏への内通を疑われ(諸説あります)家康公の妻 と長男が自害に追い込まれました。長男の信康が切腹した場所はどこだったでしょうか？

(1) 遠江 二俣城　(2) 遠江 堀江城
(3) 駿府 臨済寺　(4) 三河大浜 称名寺

**解説**　信康事件に関しては不明な点も多く、多くの研究者が様々な見解を示しています。この事件の渦中にあった深溝松平家忠の残した「家忠日記」を調べてみると、次のような事実が浮かび上がってきます。①家康公の定めた軍制では、家忠は東三河旗頭である酒井忠次の配下になっていましたが、岡崎城の信康にも出仕し屋敷も構えていたということ。②信康が家康の嫡子であるということから、当主としての振る舞いを盛んに見せるようになったこと。③家康公が心配をして岡崎から浜松に連れ出し、武田との戦いに参陣させたこと、などが挙げられます。少なくとも信康が武田氏に内通していた事実はなかったのではないかと思われます。

松平信康供養塔
(西念寺／東京都新宿区)

解答…(1)

**問題35**

天正10年(1582)にローマ教皇のもとを訪れた４人の「天正遣欧少年使節」は、誰の名代として派遣されたのでしょうか？

(1) 第106代 正親町天皇
(2) 室町幕府第15代将軍 足利義昭
(3) 織田信長
(4) 九州の３人のキリシタン大名

**解説** 天正10年(1582)、九州のキリシタン大名、大友義鎮(宗麟)・大村純忠・有馬晴信の名代としてローマへ派遣された、４名の少年を中心とした使節団を遣欧少年使節と呼んでいます。イエズス会宣教師アレッサンドロ・ヴァリニャーノが発案、実現しました。渡欧中、秀吉による禁教令が出され、一時帰国できなくなりましたが、天正18年(1590)に帰国、使節団によってヨーロッパの人々に日本の存在が知られるようになりました。また彼らの持ち帰ったグーテンベルク印刷機によって、日本語書物の活版印刷が初めて行われ、キリシタン版と呼ばれる印刷物も人々の手に渡るようになったのです。

ヴァリニャーノの銅像
(長崎県南島原市)

解答…(4)





**問題36**

天正12年(1584)、尾張「小牧・長久手の戦い」で織田信雄・徳川家康連合軍が戦った相手の大将は誰でしょうか？

(1) 足利義昭　(2) 藤堂高虎
(3) 羽柴秀吉　(4) 毛利輝元

**解説** 信長が本能寺の変で倒れると、次に台頭してきたのが羽柴秀吉です。明智光秀を山崎の合戦で破ると織田家中で俄然発言権を増しました。織田家の後継者を決める清洲会議では、信長の三男である信孝を退け、幼少の三法師丸を決定させます。また信孝側の柴田勝家を北ノ庄城に滅ぼし、信孝も自害させました。そのような状況下で危機感を持ったのが二男の信雄です。信雄は家康公に救援を頼み、家康公も信長との盟約を大義に秀吉と対立しました。秀吉は信雄の居城であった清洲城を攻めようと犬山城まで押し寄せましたが、小牧山に陣取った徳川軍に手を焼き、長久手の合戦では大敗を喫しました。

豊臣秀吉像
(大阪城豊国神社／大阪市)

解答…(3)

**問題37**

天正13年(1585)、徳川の軍勢は旧武田方の武将の籠る信濃 上田城(長野県)を攻撃しましたが、散々に敗北してしまいました。数倍の徳川軍を追い返した上田城の城主は誰だったでしょうか？

(1) 秋山虎繁　　(2) 真田昌幸
(3) 山本勘助　　(4) 依田信蕃

**解説**　真田昌幸は幸隆の三男、安房守と称していました。初め武田信玄に仕え、後に信濃上田城主となり、天正８年(1580)上野国沼田城を攻略してこれを領しました。武田氏滅亡後は織田信長に、本能寺の変後は家康公に属しますが、家康公が小田原北条氏直と和睦し昌幸に沼田城の引渡しを命じたことで対立します。天正13年(1585)、家康公は昌幸の立て籠もる上田城を攻めましたが失敗(第一次上田合戦)、退却を余儀なくされました。以後、昌幸は豊臣秀吉に属し、関ヶ原の戦いでは西軍に応じて次男信繁と共に再び上田城で徳川秀忠の大軍を阻止します(第二次上田合戦)。西軍敗北後は紀州九度山に幽居し、そこで没しました。

**真田昌幸肖像画**
**(真田幸正氏蔵)**
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…(2)

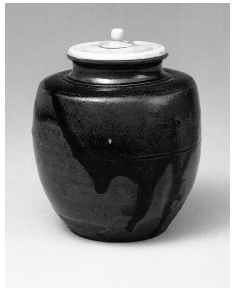


**問題38**

前問の上田合戦の年の11月、家康公の家老で岡崎城代を務める重臣が対立する秀吉のもとに出奔するという大事件が起きます。この重臣とは誰でしょうか？

(1) 石川数正　　(2) 加藤嘉明
(3) 酒井忠尚　　(4) 松平康忠

**解説**　石川数正は対豊臣の交渉役として、早くから秀吉とも顔を合わせていました。秀吉が柴田勝家と戦い勝利した後には、家康公の名代として戦勝祝いに赴き、祝いの品として天下の三大名物の一つに数えられた「初花」の茶入れを持参しました。信長が家宝としていたものを受け取ったことで、「跡を継ぐ者」としての格が備わったということでしょうか。大変喜んだ秀吉がこの茶入れについて数正に尋ねると「五千石ほどの価値があるのでは」と答えました。秀吉はすかさず「自分なら数正に十万石は出そう」と返したと伝えられます。数正がそのような誘いに乗ったとは考えにくく、豊臣との争いを避けるために自ら豊臣方に身を投じたとも考えられています。



**初花茶入(徳川記念財団蔵)**

解答…(1)

**問題39**

天正18年(1590)、家康公は関白 豊臣秀吉の北条攻めに参陣、北条氏は降伏しました。関東を支配してきた北条氏の拠点はどこだったでしょうか？

(1) 伊豆修善寺　(2) 江戸
(3) 小田原　(4) 鎌倉

**解説**　小田原城の前身は、室町時代に相模国西部を支配していた大森氏が15世紀の中頃に築いた山城でした。15世紀末、北条早雲が小田原に進出し、以後は後北条氏が５代約100年にわたって関東での勢力拡大拠点としたのです。そしてさらに整備拡張を重ね、豊臣秀吉の来攻に備えて城下を囲む総構は全長９㎞に達しました。しかし、天正18年(1590)の秀吉の小田原攻めにより北条氏は滅亡、後には家康公の重臣であった大久保忠世が城主となり、城は近世城郭の姿に改修されました。小田原城は東海道で箱根の関所を控えた関東地方の防御の要として幕末に至ります。

小田原城銅門(神奈川県小田原市)



解答…(3)



**問題40**

天正18年(1590)、北条氏の遺領である関東への国替えを命じられた家康公は、家臣団の領内配置と石高を決定していきました。このとき、家臣団最高の12万石の所領を得たのは誰だったでしょうか？

(1) 井伊直政　(2) 大久保忠世
(3) 鳥居元忠　(4) 本多忠勝

**解説**　家康公の関東移封に際しては、家臣たちを江戸城を中心に同心円のように配置しました。江戸城に近い地には譜代家臣たちを、また主街道の関東への入り口付近には兵力のある軍事的に優れた家臣たちを配置したのです。特に酒井氏を除く三傑(本多・榊原・井伊)には秀吉が10万石以上の石高を示したと考えられています。その中でも井伊直政には箕輪(後、高崎)12万石を与えました。これは大政所(秀吉の母)が岡崎に赴いた際、直政の接し方が素晴らしく、秀吉が大いに感謝したからだという逸話が伝えられています。

高崎城の石垣(群馬県高崎市)

解答…(1)

**問題41**

秀吉は周辺のアジア諸国に対し「朝貢要求」を出しました。朝鮮国に対する要求は誰を通じて出されたでしょうか？

(1) 越後の上杉氏　(2) 鹿児島の島津氏
(3) 対馬の宗氏　(4) 長崎の大村氏

**解説**　秀吉はもともと征明思想を持っており、九州を平定したあたりから具体的に考えていた様子が、後の関白秀次への書状からも窺えます。特に、高麗(朝鮮)国王は諸大名と同じように日本国王(秀吉)への出仕義務があるとして、李氏朝鮮に対馬の宗氏を介して服属朝貢を要求しました。朝鮮国は当然拒否し、このことが朝鮮出兵の引き金になったことは言うまでもありません。秀吉は他にも島津氏を介して琉球王国へ朝貢を要求し、またポルトガル領インド副王に宛てて来日要求をしています。さらに、スペイン領マニラ総督にも服属を要求したのですが、これらは明国へ進出するための権威付けが狙いであったとする説もあります。

対馬金田城石垣遺跡(長崎県対馬市)



解答…(3)



**問題42**

天正20年・文禄元年(1592)、秀吉による朝鮮出兵に際し、渡海した日本軍が最初に集結した都市はどこでしょうか？

(1) 蔚山　(2) 漢城(ソウル)
(3) 平壌(ピョンヤン)　(4) 釜山

**解説**　現在の佐賀県唐津市に築城された名護屋城は、朝鮮出兵を命じられた大名たちが集結したこともあり、非常に規模の大きな城構えになりました。全国からおよそ30万近くの兵が集められたとも伝えられています。実際に朝鮮国に出兵したのは15万～19万ほどの兵たちでしたが、彼らの先陣が集結したのが釜山港でした。そこから釜山城を一気に攻め落とします(釜山鎮の戦い)。中でも小西行長と加藤清正の軍は先を競って漢城に攻め入りました。釜山は日本から対馬を経由して朝鮮に至る重要なルートの玄関口となり、以後、軍事物資などの補給拠点となったのです。

復元された東莱邑城(釜山市／大韓民国)
日本軍が釜山城に続き攻略した城です。

解答…(4)

**問題43**

朝鮮出兵「文禄の役」の際、家康公はどうしていたのでしょうか？

(1) 日本軍の総大将として朝鮮に出陣した。
(2) 肥前名護屋城(佐賀県唐津市)まで出陣し、そのまま滞陣した。
(3) 京都 伏見城に入り、五奉行とともに国内の政治を担った。
(4) 江戸に残り、関東の開発と江戸のまちづくりに専念した。

**解説** 秀吉の命で肥前名護屋城に出陣した家康公でしたが、伴っていた兵数は1万2千ほどと伝えられ、関東六ヶ国を領する大名としては優遇されていたと考えることもできます。『常山紀談』には、本多正信が「殿は渡海なされますか」と尋ねたところ、家康公が「箱根を誰に守らせるのか」と答えたエピソードは有名であり、秀吉もそのことを認識していたのでしょう。さらに『家忠日記』には、この時に伊達政宗・南部信直・上杉景勝・佐竹義宣が家康の指揮下にあったと記してあります。東北の大名たちを従わせるためにも、家康公に出陣の命令を出しましたが、渡海させることはありませんでした。

名護屋城の徳川家康陣所跡(佐賀県唐津市)



解答…(2)



**問題44**

文禄3年(1594)、家康公は太平の世の治め方を学ぶため「貞観政要」の講義を受けています。家康公に講義した儒学者は誰だったでしょうか？

(1) 雨森芳洲　(2) 新井白石
(3) 木下順庵　(4) 藤原惺窩

**解説** 永禄4年(1561)、播磨国三木郡に生まれた藤原惺窩は、若くして京都相国寺の塔頭に入って禅学に勤しんだと伝えられます。中国の文化・思想を取り入れた禅学は、惺窩にとって新鮮に感じられたのでしょう。その頃の相国寺92世住持が西笑承兌でした。西笑承兌は家康公のブレーンの一人として知られ、幕府の諸法度や外交文書の起草、学問奨励策や寺社行政の立案など、重要な役割を果たしていました。承兌に啓発された惺窩はやがて儒学に傾倒し、33歳の時に家康公に請われて江戸に赴き「貞観政要」を講じます。後年、それまで五山の禅僧の間での教養の一部であった儒学を体系化して京学派として独立させ、林羅山などの優秀な弟子達を送り出したのです。

藤原惺窩像
(渡辺崋山画／東京国立博物館蔵)

解答…(4)

**問題45**

文禄２年(1593)、「文禄の役」の後、和平交渉は決裂し、慶長２年(1597)に再び朝鮮に出兵しました。次の中で、朝鮮に出兵しなかった武将は誰でしょうか？

(1) 加藤清正　　(2) 黒田長政
(3) 福島正則　　(4) 前田利家

**解説**　前田利家は天文７年(1538)に尾張国荒子村(名古屋市中川区)で生まれました。秀吉とはほぼ同年であり、若い頃より信長に仕えた旧友でもありました。秀吉にとっては最も心を許せる大名でもあり、文禄の役では一番に名護屋城まで出陣しています。ただ、出兵そのものよりも、秀吉自身の渡海について家康公と共に反対をしていました。文禄の役の途中、秀頼の誕生が伝えられて秀吉が陣を離れると、利家と家康公が代わりに戦いの指揮を執ったとも伝えられます。この頃から「五大老」の中心となり政務を担当する下地もできていたのでしょう。利家は慶長の役の頃には体も衰え出陣することはありませんでした。

絹本着色前田利家画像
(石川県立美術館蔵／金沢市)



解答…(4)



**問題46**

南蛮船を徳川家の領国である関東に寄港させるため、家康公が整備した港はどこだったでしょうか？

(1) 浦賀(神奈川県横須賀市)
(2) 品川(東京都品川区)
(3) 下田(静岡県下田市)
(4) 館山(千葉県館山市)

**解説**　家康公が関東に入封すると、三浦半島はその直轄領となります。それで、太平洋航路を開いていたスペイン商船と浦賀の湊での交易を考え、特にフランシスコ会の宣教師を介して交渉しましたが、進展は見られませんでした。その後の慶長５年(1600)、家康公は漂着したオランダ商船リーフデ号の乗組員ウイリアム・アダムスを外交顧問として重用し、交渉を行った結果、４年後の慶長９年(1604)、ついに浦賀にスペイン商船(マニラ・ガレオン船)が入港しました。以後、明国以外の来航船の入港が平戸・長崎に限定される元和２年(1616)まで、毎年、浦賀にスペイン商船が入港するようになったのです。

浦賀に寄港した頃のものと同型の
ガレオン船レプリカ
(ケベックシティ／カナダ)

解答…(1)

**問題47**

文禄５年(1596)、土佐に漂着したサン・フェリペ号の乗務員の証言がきっかけで、「26聖人大殉教」事件が起きました。乗務員が証言したスペインの日本進出の目的とはどのような内容だったのでしょうか？

(1) キリスト教に改宗した日本人を奴隷として売買すること
(2) 明国を植民地とするため、日本の武力を利用すること
(3) ペルー、メキシコ、フィリピンと同じように日本を武力で征服すること
(4) 日本近海にあるという金銀島を発見しスペインのものとすること

**解説**　サン・フェリペ号の乗組員の代表は大坂より派遣された増田長盛に対し、違法に没収された積み荷の返還や、乗組員の安全の確保を要求しました。その際に世界地図を広げて見せ、スペインの国力を示したという記録が残されています。増田長盛はどのようにしてスペインが支配地を拡げたのか尋ねたところ、「スペイン国王は宣教師を世界中に派遣し、布教とともに征服を事業としている。それはまず、その土地の民を教化し、而して後その信徒を内応せしめ、兵力をもってこれを併呑するにあり」(「日本王国記」ヒロン著)と答えたことから、秀吉の怒りに触れることになり、「26聖人大殉教」事件が起きることになったのです。

二十六聖人大殉教
(版画／1862年スペイン)







**問題48**

慶長５年(1600)、豊後沖に漂着したリーフデ号の乗務員と対面した家康公は、ウイリアム・アダムスとヤン・ヨーステンの二人を外交顧問として召し抱え江戸に屋敷を与えました。アダムスは英国人でしたが、ヨーステンの国籍はどこでしょうか？

(1) イギリス　　(2) イタリア
(3) オランダ　　(4) フランス

**解説**　ヤン・ヨーステンはオランダの船員です。もともとは貿易家でした。オランダ船リーフデ号に乗り込みウィリアム・アダムスらとともに慶長５年(1600)　３月、豊後に漂着しました。豊富な国際知識から江戸に出て家康公に外交のブレーンとして仕え、屋敷を与えられ日本の女性と結婚、その間に子女がありました。その地は彼の名前から八重洲河岸と呼ばれるようになります。朱印状を得て日本の貿易家たちと共にシャム(タイ)、コーチ(ベトナム)、カンボジア、トンキン(ベトナムハノイ)に赴き手広く貿易を営みました。オランダ東インド会社の日本貿易開始以後は平戸商館に協力し、自らも海外に出ていましたが途中で遭難し死亡しています。

ヤン・ヨーステン記念像
(東京駅八重洲地下街)

**問題49**

前問の二人は後に旗本に取り立てられ、日本人としての名前を与えられました。ウイリアム・アダムスの日本名は何だったでしょうか？

(1) 小泉八雲　(2) 三浦按針
(3) 柳生主馬　(4) 耶 揚子

**解説** 後にスペインとの交易交渉でも力を発揮したウィリアム・アダムスは、ヤン・ヨーステンと同様、オランダ商船リーフデ号の航海士として慶長5年(1600)に豊後に漂着、家康公に見出されました。西洋の進んだ幾何学、地理学、造船技術など高い知識で信頼も厚く、家康公の外交顧問として、また旗本待遇として「三浦按針」を名乗り、相模国三浦郡逸見村(横須賀市)で200石と江戸日本橋に屋敷を与えられたのです。按針の建造した2隻のヨーロッパ式帆船のうち1隻は120トンの当時最大級のガレオン船であり、上総(千葉県)に漂着したフィリピンの前総督ドン・ロドリゴがメキシコに帰るときに使用されました。

三浦按針の菩提寺「浄土寺」
(神奈川県横須賀市逸見)

解答…(2)





**問題50**

家康公は前問のアダムスらとの対面から4ヶ月後、謀反の疑いにより、五大老の一人、上杉景勝の征伐に進発します。家康公らが目指した上杉家の本拠地はどこだったでしょうか？

(1) 会津　(2) 越後
(3) 上野　(4) 常陸

**解説** 慶長3年(1598)、越後の上杉景勝は秀吉の命により会津120万石に加増移封され、以後は「会津中納言」と呼ばれました。旧領地から引き続き統治が認められたのは、佐渡および越後国のごく一部と出羽国庄内のみで、後は伊達政宗が征服した会津地方でした。新しい知行地は山地で隔てられ、峠道で結ばれているだけでしたが、北側に境を接する最上義光や伊達政宗と衝突する危険性もあり、東北諸大名と関東の家康公の監視と牽制という重大な使命が科せられていたのです。石田三成と通じたこともあり、結果的に家康公との対立は避けられないものとなってしまいました。

上杉景勝像
(上杉神社蔵／山形県米沢市)
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

解答…(1)

**問題51**

前問の上杉征伐に合わせて石田三成らが挙兵した「関ヶ原の戦い」において、家康公の東軍に対し、次の中で西軍に属した武将は誰でしょうか？

(1) 大谷吉継　(2) 田中吉政
(3) 福島正則　(4) 山内一豊

**解説**　田中吉政と山内一豊は、浜松の堀尾氏、駿府の中村氏と共にもともとは関白秀次の宿老たちでした。彼らは秀次を死に追いやった石田三成を嫌っていたことから、家康公の東軍に属したとも言われますが、実情は領国が「東海道筋」に位置していたことから東軍の大軍を通すことになり、抵抗ができなかったということもあったのでしょう。大谷吉継は石田三成の挙兵に反対していたようですが、説得されて西軍に加わったとされています。その友情から一族を挙げて三成の軍に加わり、壮絶な死を遂げたことで美談として語られることが多い武将です。

大谷吉継の墓
（関ヶ原古戦場／岐阜県関ケ原町）



解答…（1）



**問題52**

慶長８年（1603）、家康公は征夷大将軍に任じられ江戸に幕府を開きました。以後、徳川将軍は大政奉還まで何代続いたのでしょうか？

(1) ９代　(2) 15代
(3) 18代　(4) 22代

**解説**　家康公が慶長８年（1603）に征夷大将軍に就任し江戸幕府を創設して以来、慶応３年（1867）に15代慶喜が大政奉還をするまでの、15代265年の間、徳川家が将軍職を継承、武門の棟梁として継続しました。家康公は将軍職を世襲する体制を固めるために、２年後には三男秀忠に将軍職を譲りました。秀忠は次男家光（長男長丸がいたが、既に早世していた）に将軍職を譲って第３代将軍とします。徳川宗家の男子による将軍職の世襲を確立するため、多くの側室を大奥に抱えて血統の保持に努めました。しかしたびたび実嗣子を欠き、家康公の血を引く徳川御三家や御三卿から養子を迎えて家系をつなぐことが少なくありませんでした。

最後の将軍徳川慶喜の
肖像写真（1866年頃撮影）
出典：ウィキメディア・コモンズ、
フリーメディアリポジトリより

解答…（2）

**問題53**

ポルトガルが独占的に明(中国)から仕入れ、日本との交易で大きな利益を得ていた重要な品目は何だったでしょうか？

(1) 亜鉛　　(2) 生糸
(3) 銅　　(4) 刀剣

**解説**　生糸は古代から中世にかけて、日本でも生産されていました。ただ、一般庶民などの需要は少なく、産業としては成立し難いものだったと考えられます。ところが中世の後期になると、公家衆に加えて武士や豪商たちも絹織物を好むようになりました。そこで良く使われたのが中国産の「白糸」と呼ばれる生糸です。ただ、当時の中国(明)は沿岸部での交易を制限していましたので生糸の輸入も大変困難な状況になっていました。そこに目を付けたのがポルトガルです。宣教師を通じて巧みに明の国王に近づき、生糸を独占したのです。その結果、日本はポルトガルの提示価格での生糸の購入を余儀なくされたのです。

生糸(イメージ)



解答…(2)

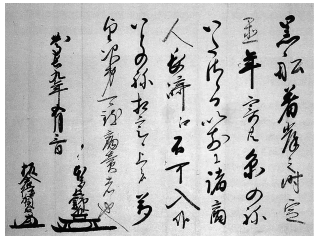


**問題54**

慶長9年(1604)、前問の取引によるポルトガルの独占に対抗し、日本側が価格決定権を持てるよう家康公の側近 本多正純などが打ち出した制度を何というでしょうか？

(1) 糸割符制度　　(2) 勘合符制度
(3) 朱印船制度　　(4) 日本人町創設

**解説**　ポルトガルの中国産生糸(白糸)独占販売に対し、幕府の指名業者である糸割符仲間が、年1回、その代表者である「糸年寄」と外国商人との折衝で決められた固定価格で一括購入し、これを仲間内や幕府指定の特許商人に分売することにしました。これを糸割符制度と呼んでいます。慶長9年(1604)、本多正純と板倉勝重が連署で奉書を下し、当時、輸入価額の主要部分を占めたポルトガル船舶載の白糸について、堺、京、長崎の有力町人を糸年寄に定め、彼らの折衝による糸価決定まで、諸商人の長崎立入りを禁じたことがその始まりとされています。これにより、ポルトガルの独占は妨げられることになったのです。



「糸割符奉書」／糸割符由緒書より
※外国船を黒船と記している)

解答…(1)

**問題55**

オランダやイギリスが江戸幕府と貿易を行うことを許された最大の理由は何でしょうか？

(1) 大量の南蛮の薬草や香木を輸入できるため
(2) 最新の医療の提供があるため
(3) キリスト教の布教を貿易の条件にしないため
(4) 南蛮船の造船技術を教えてもらえるため

**解説** 富強のため、火器・弾薬や、西洋や東南アジアの珍しい品々が欲しい幕府にとって、東南アジアに拠点を持つ西欧諸国は交易相手として非常に重要でした。しかし、その反面、キリスト教が広まることを阻止したかった幕府にしてみれば、西欧諸国との交易は諸刃の剣でした。

交易と布教が一体となった旧教（カトリック）国であるスペインやポルトガルとは異なり、新教（プロテスタント）国であるオランダやイギリスは、交易と布教を切り離して対応することができたため、幕府は、両国との関係を強化したのです。

ローマ・カトリックの総本山
「サン・ピエトロ大聖堂」（バチカン市国）



解答…（3）



**問題56**

ヨーロッパ諸国との南蛮貿易において、日本からの輸出品で中心となったものは何でしょうか？

(1) 浮世絵　(2) 銀
(3) 米　(4) 綿織物

**解説** 南蛮貿易はマカオを拠点としたポルトガル人を中心に営まれ、重要な交易品には日本の銀と中国の生糸がありました。日本では16世紀前半に朝鮮半島から「灰吹法」（金・銀を含む鉛から金・銀を抽出する方法）が伝わると銀の産出量が増加し、倭銀とも呼ばれてポルトガルやスペインなどから求められたのです。明は海禁政策で日本との貿易は制限されていたことから、ポルトガル商人は、日本の銀で明の生糸を購入して日中の中継貿易を行うようになりました。明も国家の財政上、銀を必要としていたのです。

ポルトガルの貿易業者が日本に上陸する様子（16世紀・作者不明）

解答…（2）

**問題57**

慶長９年(1604)から寛永(かんえい)12年(1635)までの32年間にわたり、日本と東南アジア諸国との間で朱印船貿易が行われました。この間、最も多くの朱印船が渡航した国は「交趾(コーチ)」ですが、現在のどこの国のことでしょうか？

(1) カンボジア　(2) タイ
(3) フィリピン　(4) ベトナム

**解説**　幕府の庇護(ひご)のもと、およそ30年間にわたり朱印船貿易は盛んに行われ、東南アジア各地に約10万人もの日本人が渡航しました。この間、記録(「国史大辞典」)に残る朱印船の数は356隻にのぼり、交趾には５分の１にあたる71隻が渡航しています。交趾は現在のベトナムにあった国で、朱印船は同じベトナムにあった安南(アンナン)、東京(トンキン)、占城(チャンパ)にも渡航しています。交易の振興に伴い移住する人も増え、交趾のツーランとフェフォはじめ東南アジア各地に８ヶ所の日本町が誕生しました。この日本人町におよそ7000人から１万人の移住者がいたと考えられています。

交趾焼の壺(つぼ)
中国南部で生産された陶磁器の一種。交趾船によりもたらされたことから交趾焼と呼ばれる。

解答…(4)





**問題58**

朱印船貿易の活発化と共に、東南アジア各地に日本人町が形成されました。なかでも現地の国王の信頼(しんらい)を得るほどの活躍(かつやく)をした山田長政(やまだながまさ)が統治(とうち)したアユタヤの日本人町は、現在のどこの国にあったのでしょうか？

(1) カンボジア　(2) タイ
(3) ビルマ　(4) ベトナム

**解説**　山田長政は駿河国の生まれです。慶長16年(1611)、朱印船に乗ってシャム(タイ国)に渡り、国都アユタヤ郊外の日本町に入りました。当時は2000人近くの多数の日本人が居住しており、一人の「首長」の統率下にシャムの兵士として軍に属する者や、金融業・貿易業に従事する者などがいたと伝えられています。やがて長政はその才幹を認められ首長となります。元和７年(1621)にはシャムの官爵を授けられ、日本への使節の渡航にあたっては自分の部下を差し遣わしました。また老中に書を送り、使節のための居住地斡旋などの依頼も行ったようです。その後も両国の親善に努め、かたわら商船を派遣して貿易を行い、シャムの外交・貿易に活躍しました。

山田長政肖像画
(静岡浅間神社蔵)
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

解答…(2)

**問題59**

慶長10年(1605)、家康公は朝鮮国との講和と国交回復に向け、朝鮮の国使である僧 惟政(松雲大師)らと会見を行いました。両者が会見した場所はどこだったでしょうか？

(1) 江戸城　(2) 唐津城
(3) 駿府城　(4) 伏見城

**解説**　惟政は、尊称を「松雲大師」と言います。文禄・慶長の役では義僧兵を組織し、日本軍と果敢に戦いました。戦後、講和を模索していた両国ですが、朝鮮国から「探賊使」として派遣されていた惟政と家康公の会見が伏見城で実現しました。この会談は、日本と朝鮮の国交回復に大きな役割を果たし、数千人の朝鮮人捕虜の帰国も実現させたのです。「互いに誼を交わし信を通わせよう」―「通信使」の意味ですね。惟政と会談した家康公は、彼の人となりに感服したと言います。惟政は漢詩を作るのも巧みで、日本滞在中、西笑承兌ら日本側の知識人とも漢詩の交換も行ったと伝えられます。

**松雲大師像**
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…(**4**)



**問題60**

慶長10年(1605)に将軍職を2年で辞し、秀忠に譲った家康公は、その後、何と呼ばれたでしょうか？

(1) 大御所　(2) 黄門
(3) 御隠居　(4) 太閤

**解説**　一般的には隠退した前将軍に対する敬称を「大御所」と呼んでいますが、本来は天皇や皇族・摂関家の貴族など、高位の人の住居である「御所」という呼び方が、そのまま敬称として用いられるようになったことから「御所様」「大御所」などの呼称が始まったようです。鎌倉幕府においても、源氏将軍の血筋が絶え、朝廷から下向された摂家将軍や宮将軍が実現すると、隠退した前将軍を大御所と呼ぶ慣例が生まれました。江戸時代、特に家康公や秀忠、および11代将軍家斉は隠退して後に「大御所」と呼ばれ、政治の実権を保持しつつ将軍家を補佐しました。

**大御所家康公像(駿府城公園／静岡市)**

解答…(**1**)

**問題61**

慶長11年(1606)、家康公は占城(チャンパ)、柬埔寨(カンボチャ)、暹羅(シャム)、田弾(タタン)の国王に宛て、極上の“あるもの”を求める文書を出しています。家康公が強く求めたものとは何でしょうか？

(1) 奇楠香(伽羅)　(2) 絹織物
(3) 黒砂糖　(4) 虎皮の敷物

**解説**　奇楠香(伽羅)は、香木の沈香のうち最上のものをいいます。桃山時代、茶道とともに香道も盛んとなりましたが、家康公は特に香木の収集に執心していました。特に香木の王者といわれる伽羅に対する愛着にはなみなみならぬものがあったようで、安南・占城・柬埔寨・暹羅といった東南アジア諸国の国主に親書を送り、極上の香木の贈与を願ったほどです。家康公は健康への意識が高く、自身で薬草を育て薬を調合していたことはよく知られています。香についても健康法の一環として、伽羅の香りがもたらすリラックス効果、癒しによる健康維持を目的とするものであったのでしょう。(久能山東照宮HPより抜粋)

徳川家康所用「伽羅」
(国重文・久能山東照宮蔵／静岡市)



解答…(1)



**問題62**

朱印船貿易では、豪商だけでなく、西国大名や外国人、幕府関係者など多くの人々が船を出していますが、次の中で、朱印船を出していないのは誰でしょうか？

(1) 家康公の側室 お夏　(2) 今井宗薫
(3) 豊臣秀頼　(4) ヤン・ヨーステン

**解説**　幕府公認の御朱印船貿易は、豪商だけでなく、大名やその関係者たちも盛んに行うようになってきました。豪商では京都の角倉了以や茶屋四郎次郎、長崎の末次平蔵が有名ですが、他にも60名あまりの商人が朱印状を交付されていました。また、大名では特に九州の大名が中心となりましたが、島津忠恒や有馬晴信、細川忠興、鍋島勝茂、加藤清正ら10家程が朱印状を持っていたようです。さらには、ヤン・ヨーステンやウィリアム・アダムス(三浦按針)などの外国人も朱印船貿易を行いました。また女性も二人いたようですが、一人は家康公の側室お夏の方の名が記録されています。大坂城の秀頼は朱印船貿易には関わっていません。

角倉了以像(嵐山公園／京都市)

解答…(3)

**問題63**

慶長12年(1607)、第１回の朝鮮使節(第１回から３回は回答兼刷還使)が来日し、朝鮮との国交が回復しました。以来、朝鮮使節(第４回より朝鮮通信使)は江戸期を通じて、何回、日本を訪れているでしょうか？

(1) ９回　(2) 12回　(3) 15回　(4) 18回

**解説**　江戸時代の朝鮮通信使は、慶長10年(1605)に朝鮮国の僧惟政と家康公が伏見城で会談を行った２年後の、慶長12年(1607)から始まり、文化８年(1811)まで12回実施されました。日本側はこれらをすべて通信使と捉えていますが、朝鮮側では初めの３回は徳川将軍からの国書(宗氏の偽作)への回答と、文禄・慶長の役で日本に拉致された朝鮮人の刷還(返還)を目的とする「回答兼刷還使」と呼んでいます。通信使一行は正使以下300人から500人で構成され、大坂までは海路、それ以東は陸路をとりました。通信使の来日は両国の威信をかけた外交行事であり、一行が日本国内を往来する際の交通宿泊費や饗応費はすべて日本側の負担のため莫大な費用が発生しました。

江戸城内(三の丸)で陶器や虎の皮等の礼単(進物)を準備する朝鮮通信使(江戸図屏風より)

出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…(2)



**問題64**

慶長14年(1609)、メキシコに向かっていたフィリピン総督のスペイン人 ドン・ロドリゴ一行が乗る船が房総半島沖で座礁し、住民に救助されました。一行を手厚く保護した大多喜藩主は、徳川四天王の子息ですが、誰でしょうか？

(1) 井伊直孝　(2) 酒井家次
(3) 榊原康勝　(4) 本多忠朝

**解説**　フィリピンの臨時総督であったドン・ロドリゴは、慶長14年(1609)、次期総督と交代のためガレオン船３隻の艦隊でマニラからアカプルコ(メキシコ)へ向けての航海中に房総沖で難破しました。上総国の岩和田村(現千葉県夷隅郡御宿町)の浜に漂着、地元民に救助されましたが、大多喜城の本多忠朝(本多忠勝二男)も300人余りの家臣を率いてロドリゴのもとを訪れ、温情ある措置をとったのです。ロドリゴ一行は、本多忠朝の計らいで大多喜城から江戸城に立ち寄り、さらに駿府城で家康公と会見しました。この時、家康公はかねてから望んでいた関東浦賀湊でのスペイン領メキシコとの交易について、国王に伝えるよう依頼したのです。

ドン・ロドリゴ上陸の地
(千葉県御宿町岩和田海岸)

解答…(4)

**問題65**

慶長14年(1609)、駿府で家康公、江戸で将軍 秀忠と対面した琉球王は誰でしょうか？

(1) 英祖王統 玉城　　(2) 北山王 怕尼芝
(3) 中山王 尚寧　　(4) 南山王 承察度

**解説** ロドリゴ会見と同じ年、慶長14年(1609)には、琉球からも中山王尚寧が薩摩藩主である島津家久と共に駿府と江戸にやってきました。これはこの年の３月に起きた薩摩藩による琉球侵攻に敗北した琉球王が、徳川幕府との新たな交易上の取り決めをするためですが、内容は薩摩藩の琉球に対する支配権を承認したことと、奄美群島を割譲し薩摩藩の直轄地としたことでした。このことにより薩摩藩は琉球との独占的な交易が幕府にも認められることとなり、琉球国を介した中国との交易が鎖国後も継続されることになったのです。

「琉球人行列彩色」 1832年の「江戸上り」の様子を描いた浮世絵(部分)
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…(3)



**問題66**

慶長15年(1610)、家康公は第64問のドン・ロドリゴ一行をメキシコに帰国させましたが、メキシコとの交易を望み、日本の貿易商人を使節として同行させました。日本人として初めて太平洋を往復したこの商人は誰でしょうか？

(1) 角倉了以　　(2) 田中勝介
(3) 茶屋清延　　(4) 山田長政

**解説** ロドリゴ一行は日本滞在の後、家康公がウィリアム・アダムスに命じて建造させたガレオン船(日本名：按針丸)の提供を受けました。この120トンのガレオン船はスペインの本格的な船と遜色ないもので、「サン・ブエナ・ベントゥーラ号」と命名されます。慶長15年(1610) 8月1日に日本を出航し、11月13日アカプルコに帰還しました。この時にこの船に乗船した日本人が田中勝介です。田中は京都の貿易商人で、記録上では初めて太平洋を横断・往復した日本人でした。メキシコ(スペイン)との通商を望んでの渡航でしたが、合意には至らなかったとされています。

サン・ブエナ・ベントゥーラ号と按針の像
(按針メモリアルパーク／静岡県伊東市)

解答…(2)

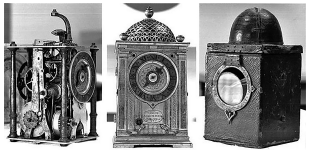
**問題67**

慶長16年(1611)、家康公がドン・ロドリゴ一行をメキシコに送り届けたお礼に、メキシコ副王の答礼使としてビスカイノが来日し、スペイン国王から預かった西洋時計を家康公に贈りました。この時計は現存しますが、どこに保存されているでしょうか？

(1) 久能山東照宮　(2) 静岡浅間神社
(3) 増上寺　(4) 東京国立博物館

**解説**　久能山東照宮には、スペイン国王フェリペ３世から海難救助のお礼として家康公に贈られた洋時計が神宝として残されています。元和２年(1616)に家康公が薨去の後、久能山東照宮に納められ、大切に保管されてきました。後に家康公の愛用した手沢品のひとつとして、国の重要文化財に指定されています。―(中略)―ゼンマイ式の時打付時計としては日本現存最古の品です。刻銘に1581年スペインのマドリッドでハンス・デ・エバロが製作したとあります。(久能山東照宮ＨＰより)

これはロドリゴ一行を送還したスペイン国王答礼使ビスカイノが持参したものですが、交易の交渉が進展することはありませんでした。



洋時計の内部と概観
(久能山東照宮蔵／静岡市)





**問題68**

慶長17年(1612)、本多正純の家臣 岡本大八が起こした贈収賄事件に連座し、死罪となったキリシタン大名は誰でしょうか？

(1) 有馬晴信　(2) 大友宗麟
(3) 小西行長　(4) 松浦隆信

**解説**　肥前日野江藩(後に島原藩)主であった有馬晴信と、家康公の側近本多正純の与力であった岡本大八の間にあった贈収賄事件を「岡本大八事件」と呼んでいます。朱印船を派遣していた有馬晴信は、慶長14年(1609)、ポルトガル領のマカオで諍いから船員など数十名を失い、翌年、弁明に長崎に来航したポルトガル船を報復として攻撃、沈没させました。その功から旧領返還を願い出ますが、岡本大八はその斡旋にかこつけて多額の金品を詐取したのです。このことが明るみに出ると、大八は獄に入れられ、後に安部河原で火あぶりの刑に処せられました。晴信は改易・甲州配流後に自決したのです。この二人がキリシタンであったことが契機となり、家康公は禁教令を発することになりました。

有馬晴信木像
(有馬キリシタン遺産記念館／南島原市)

**問題69**

禁教政策に転換した家康公は、慶長18年(1613)、「伴天連追放文」を起草させ、全国的に禁教を命じました。この「伴天連追放文」を起草した黒衣の宰相と呼ばれた臨済宗の僧侶は誰でしょうか？

(1) 閑室元佶　　(2) 金地院崇伝
(3) 西笑承兌　　(4) 南光坊天海

**解説**　金地院崇伝はもともと足利幕府の名門一色氏の子として生まれました。信長の入京により足利将軍家の地位が脅かされるようになると出家し、臨済宗の総本山南禅寺に入りました。慶長13年(1608)、相国寺の西笑承兌の推薦により家康公に招かれて駿府に赴き幕政に参画します。主に外交事務を担当するようになり、慶長15年(1610)、崇伝は駿府城内に建立した金地院を与えられました。その後は貿易立国を目指す家康公の下、明や朝鮮をはじめタイ(アユタヤ王朝)、ベトナムなど、東南アジア諸国との交易や西欧諸国との接触、外交文書の起草や朱印状の発行など一手に引き受けるようになりました。この「伴天連追放文」も崇伝が起草したものです。

**金地院崇伝像**
**(金地院蔵／京都市)**
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…(2)



**問題70**

慶長18年(1613)、家康公の許可を得た仙台の伊達政宗は、太平洋航路での交易実現を目指し、遣欧使節を派遣しました。この使節団の代表としてスペインに向かったのは誰でしょうか？

(1) 片倉景綱　　(2) 支倉常長
(3) ビスカイノ　　(4) 松平忠輝

**解説**　支倉常長は仙台藩伊達政宗の家臣です。伊達政宗がスペインとの交易を強く望んだことから、慶長18年(1613)に政宗の書状を携え、スペイン人宣教師ルイス・ソテロとともに、仙台藩で建造された日本船で太平洋を渡り、さらに大西洋を横断してスペインに至りました。スペイン国王フェリペ3世に謁見し、後にローマ法王にも謁見が許され洗礼を受けます(洗礼名フランシスコ)。仙台藩との交易を実現することはできませんでしたが、数々の西洋の品を携えて帰国の途に就きました。苦難の航海の末、元和6年(1620)に帰国を果たしますが、その時には幕府が禁教令を出しており、失意のうちに亡くなりました。

**支倉常長の肖像画**
**(アムステルダム国立美術館／オランダ)**
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより

解答…(2)

**問題71**

オランダとは慶長14年(1609)に、イギリスとは慶長18年(1613)に交易が開始されましたが、この二つの国が最初に商館を置いた地はどこだったでしょうか？

(1) 堺　(2) 長崎
(3) 博多　(4) 平戸

**解説**　オランダ人の日本来航は、慶長5年(1600)、豊後臼杵湾に漂着した「リーフデ」号に始まります。その後オランダ本国で東インド会社が設立され、東洋貿易はバタヴィア(ジャカルタ)を中心に進められました。慶長14年(1609)に来航したオランダ船は家康公から通商許可(朱印状)を得て平戸に商館を開設、本格的に交易を始めました。一方、慶長18年(1613)、イギリス東インド会社の指揮官であったジョン・セーリスが国王ジェームズ1世の国書を家康公に献じ、ウィリアム・アダムズの斡旋により、オランダと同じく家康公から朱印状を得て商館を開設したのです。しかし、家康公死後はオランダとの商戦に押され、10年で閉鎖を余儀なくされました。

復元された平戸オランダ商館
(長崎県平戸市)



解答…(4)



**問題72**

慶長19年(1614)、300名余りのキリシタンが国外に追放されました。「大追放」と呼ばれるこの措置で、マニラに追放されたキリシタン大名は誰でしょうか？

(1) 大村純忠　(2) 蒲生氏郷
(3) 黒田孝高　(4) 高山右近

**解説**　高山右近はキリシタン大名の代表的な存在です。人徳の人としても知られ、蒲生氏郷や黒田孝高など多くの大名が彼の影響を受けてキリシタンとなりました。細川忠興・前田利家は洗礼を受けませんでしたが、右近に影響を受けてキリシタンに対して好意的であったと伝えられます。ただ一方で、自分の高槻領内の神社仏閣を破壊し、神官や僧侶に迫害を加えたため、現在でも高槻周辺の古い神社仏閣の建物や仏像などは数が少ないと言われます。右近は秀吉の伴天連追放の際、領地や身分を捨てて信仰を選んだことで有名ですが、晩年は家康公の国外追放令を受けてマニラに追放され、到着してすぐに発病し亡くなっています。

カトリック高槻教会高山右近記念聖堂
(大阪府高槻市)

解答…(4)

**問題73**

前問と同年の11～12月に「大坂冬の陣」が起こりました。次の中で大坂方の武将でないのは誰でしょうか？

(1) 木村重成　　(2) 真田幸村
(3) 長宗我部盛親　　(4) 前田利常

**解説**　家康公最後の戦いと呼ばれる大坂の陣ですが、大坂方の武将たちの特徴はその多くが浪人たちであったということでしょう。特に関ヶ原の合戦後、西軍に属していた武将たちは再び活躍の場が与えられる戦乱の時代を望んでいたのです。その代表が真田信繁（幸村）であり、長宗我部盛親、毛利勝永、後藤基次、明石全登と合わせ「大坂五人衆」などと呼ばれました。木村重成は大野治長らと同じ「豊臣の譜代衆」であり、秀頼を補佐する存在でした。前田利常はどちらかというと大坂方に理解を示していましたが、徳川軍として真田信繁の軍と「真田丸」で戦い、大きな損害を出すことになってしまいました。

前田利常像（那谷寺蔵／石川県小松市）
出典：ウィキメディア・コモンズ、フリーメディアリポジトリより



解答…（4）



**問題74**

翌 慶長20年（1615）、「大坂夏の陣」により滅亡した大坂城の城主は誰だったでしょうか？

(1) 豊臣秀次　　(2) 豊臣秀長
(3) 豊臣秀吉　　(4) 豊臣秀頼

**解説**　大坂冬の陣で家康公と和睦をした豊臣秀頼でしたが、その条件であった二の丸、三の丸の破却や惣堀・外堀の埋め立てについて、特に浪人衆から不満が起こり、不穏な動きが見られるようになりました。結果、堀は掘り返され、塀が造られるなど再軍備が進んでいるという報告を受けた家康公は、再び大坂攻めを敢行します。大坂夏の陣の勃発ですが、惣堀の大部分を埋め立てられた大坂方は、外に出て戦う作戦をとりました。特に毛利勝永と真田信繁は大いに奮戦し、家康公の本陣近くまで攻め入ったと伝えられます。その後は徳川方が押し返し、最後は、大坂城の淀殿と秀頼は自刃して果てることとなりました。

家康公茶臼山本陣跡（天王寺公園／大阪市）

解答…（4）

**問題75**

元和２年(1616)、家康公は75年の生涯を閉じました。遺言により、遺体は久能山に埋葬されましたが、葬儀はどこで執り行われたでしょうか？

(1) 寛永寺(江戸・上野)　(2) 増上寺(江戸・芝)
(3) 大樹寺(岡崎)　(4) 臨済寺(駿府)

**解説**　家康公の遺言として、徳川御実記には、「御大漸(病が次第に重くなること)の後は久能山に納め奉り、御法会は江戸増上寺にて行はれ、霊牌は三州大樹寺に置れ、御周忌終て後、下野の国日光山へ小堂を営造して祭尊すべし。京都には南禅寺中金地院へ小堂をいとなみ、所司代はじめ武家の輩進拝せしむべしと命ぜらる」と記されています。自分が死んだら久能山に葬り、葬式は江戸の増上寺で行い、位牌は三河の大樹寺に置き、一周忌を過ぎたら下野の日光に小さな祠を建て神として祀りなさい。京都では南禅寺の金地院に小さな祠を建て、京都所司代を始め武家の者たちに進んでお参りさせなさいと命じられました。葬儀は増上寺で行われたのです。

増上寺三解脱門(東京都港区芝)



解答…(2)



**問題76**

寛永10年(1633)、対馬藩家老の柳川調興が、藩主の宗義成による国書偽造の事実を幕府に訴え出た「柳川一件」の結末として、正しいのはどれでしょうか？

(1) 国書の偽造が発覚したことにより、朝鮮との国交が一時断絶し、両国の関係者が処罰された。
(2) 対馬藩主 宗義成は切腹、家老の柳川調興が朝鮮との交渉担当責任者となった。
(3) 対馬藩主 宗義成は無罪、家老の柳川調興は弘前(青森県)に流罪となった。
(4) 主君を訴えた柳川調興に全ての責任が押し付けられ、朝鮮へ送られた。

**解説**　日朝両国の仲介役として、国交回復に尽力した対馬藩でしたが、その過程で両国の国書を偽造するという重大事を働いていました。対馬藩家老の柳川調興は、旗本への復帰を目指して幕府にそれを訴え出ますが、結果は対馬藩主の宗義成はお咎めなし、柳川調興が流罪となります。この結果は、幕府が無用な混乱を忌避したためともされます。実務を担っていた柳川調興が失脚して以降は、臨済宗の僧が対馬の寺院以酊庵に輪番で派遣され、朝鮮との外交を担当しました。以後、朝鮮との外交は、幕府の監視下で進められていきます。

対馬宗家文書(九州国立博物館蔵)
出典：ColBase国立博物館所蔵品統合検索システム

解答…(3)

**問題77**

オランダ商館長カピタンの江戸参府は、寛永10年(1633)より定例化され、幕末まで続きましたが、どれ位の間隔で行われたでしょうか？

(1) カピタンの任期は基本1年であり、原則として毎年春に、新しく赴任したカピタンが参府した。
(2) 原則として5年に一度、任期を終えたカピタンが、秋に、新任者と共に参府した。
(3) 任期に関係なく、将軍の代替わりの際に、祝いのため参府した。
(4) 特に間隔は定めず、幕府の求めに応じて参府した。

**解説** オランダ本国からカピタンとして日本に派遣されオランダ人は、出島で158代、平戸時代からあわせると166代続きました。慶長14年(1609)、最初にカピタンとして派遣されたのは、ヤックス・スペックスでした。原則１年任期のカピタンは、11月に就任したのち、早々に江戸参府の準備を始め、新春の１月に将軍へ挨拶をします。２月には出島に戻り、出島でオランダ船の到着対応などの職務に励み、10月にはオランダへ向けて帰国の途に就きます。長崎御用や蘭癖大名が視察や交流のために訪れるので、その対応もする必要がありました。非常に慌ただしいスケジュールだったことでしょう。

初代平戸商館長
ヤックス・スペックス肖像画
出典：ウィキメディア・コモンズ、
フリーメディアリポジトリより





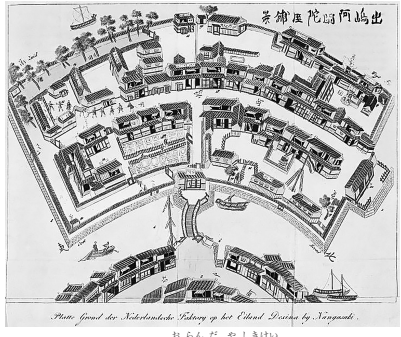


**問題78**

寛永13年(1636)、長崎に造られた「出島」はどのように利用されたのでしょうか？

(1) 異国人の隔離地　(2) ごみ捨て場
(3) 罪人の流刑地　(4) 奉行所の建設地

**解説** キリスト教の布教や広がりを阻止しつつ、ポルトガルを始めとした西洋各国との貿易を続けたい幕府は、長崎に滞在しているポルトガル人と日本人の接点を極力減らすために対策を講じます。その一つが出島の築造でした。長崎の有力町人たちに出資させ、２年をかけて造られたこの人口島は、寛永13年に長崎に入港したポルトガル船の乗員800人が最初の住人となったといわれています。ポルトガルとの交易が打ち切りになり一旦無人となりましたが、寛永18年(1641)にオランダ商館が平戸から長崎へ移され、出島はオランダ人の隔離地となりました。



出島阿蘭陀屋舗景
出典：ウィキメディア・コモンズ、
フリーメディアリポジトリより

**問題79**

寛永14年(1637)、「島原・天草一揆」を起こした農民たちが島原城を攻めた後、立て籠もった城はどこでしょうか？

(1) 熊本城　(2) 唐津城
(3) 原城　(4) 平戸城

**解説**　島原藩主 松倉氏の圧政に対して蜂起した一揆勢は、島原城下町を焼き払い、大手門や桜門を攻撃しましたが、防備に優れた城を攻め落とすことが出来ず、退却します。島原から退却した一揆勢が本拠地として入城したのが原城でした。三方を海に囲まれた原城は、旧領主 有馬晴信が肥前名護屋城や倭城に用いられた豊臣系城郭の築城技術を盛り込んで築城した堅城でした。旧有馬家臣団も参戦していた一揆勢にとって、構造を把握している原城は、立て籠もるのに最適の城だったのです。

原城跡(長崎県南島原市)



解答…(3)



**問題80**

前問の「島原・天草一揆」の鎮圧のために、約3万4千人の幕府軍を率いて城攻めをした三河 深溝藩主は誰だったでしょうか？

(1) 阿部忠秋　(2) 板倉重昌
(3) 稲葉正勝　(4) 松平家忠

**解説**　板倉重昌は京都所司代で著名な板倉勝重の次男であり、深溝城を藩庁とする1万5千石の藩主として、一揆の鎮圧のために約3万4千人の幕府軍を率いました。ところが、なかなか城を攻め落とせず、焦った重昌は総攻撃をかけ、銃弾に当たり戦死してしまいます。戦死した重昌の遺骸は江東寺(島原市)で火葬され、墓石は江東寺、板倉6家の菩提寺である長圓寺(西尾市)、江戸の菩提寺である宝泉寺(東京都中野区)に建立されました。また原城にも重昌の子孫から出た福島藩板倉家・庭瀬藩板倉家・深溝陣屋板倉家の3家によって延宝9年(1681)に供養塔が建立されました。

板倉重昌墓碑
(原城跡／長崎県南島原市)

解答…(2)

**問題81**

前問の幕府軍の大将の戦死の報を受け、幕府は新たに老中を派遣し、12万を超える大軍で「島原・天草一揆」を鎮圧しました。この老中は誰でしょうか？

(1) 酒井忠勝　(2) 土井利勝
(3) 保科正之　(4) 松平信綱

**解説**　一揆鎮圧に派遣された松平伊豆守信綱は松平の一族である大河内(長沢)松平家の当主であり、その当時は武蔵 忍藩(埼玉県行田市) 3万石の藩主でした。“知恵伊豆”とも称された信綱は、老中という立場や松平一族という血筋もあり、大国の多い九州の外様諸藩をしっかりと統制しました。12万を超える大軍でしたが、一揆勢の勢いが強いうえ、原城が非常に堅固な城であったので、なかなか攻め落とすことが出来ませんでした。信綱はオランダ船に援護を依頼するなど、まさに総動員で原城を攻め落とし、一揆を鎮圧しました。

忍城址・行田市郷土博物館(埼玉県行田市)



解答…(4)



**問題82**

「島原・天草一揆」を鎮圧した幕府は、寛永16年(1639)、キリスト教の禁教を強化するため、ある国との交易を打ち切りました。ある国とはどこでしょうか？

(1) イギリス　(2) オランダ
(3) ポルトガル　(4) 明

**解説**　一揆を鎮圧した幕府は、キリスト教の取り締まりを強化するための方策の一つとして、交易と共に布教活動も行っていたポルトガル人を追放し、ポルトガルとの交易を打ち切りました。交易を打ち切ったポルトガルに対する幕府の対応は、非常に苛烈でした。寛永17年(1640)に来航禁止の撤回を求めて長崎に入港したポルトガル船を焼き沈め、乗船者(使節団)74名の内61名を処刑し、13名をポルトガルのアジア拠点であるマカオへ送り返しています(「ポルトガル使節団長崎受難事件」)。この交易打ち切りにより、日本が交易する西洋の国はオランダ一国となりました。

唐船・南蛮船図屏風(一部)
出典：国立文化財機構所蔵品統合検索システム

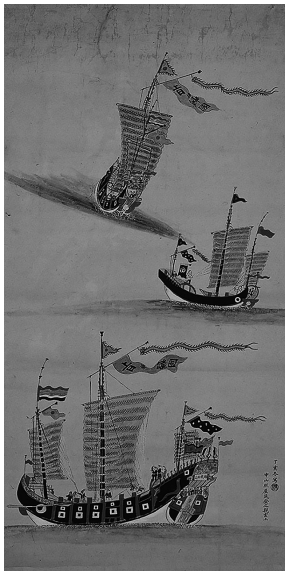
解答…(3)

**問題83**

江戸時代に、日本が海外と繋がる窓口となっていた地を、「四つの口」と呼んでいます。四つの口のうち、誤っているのはどれでしょうか？

(1) 対馬　(2) 長崎
(3) 松前　(4) 琉球

**解説**　対馬は朝鮮と、長崎はオランダ・中国と、松前はアイヌとの交流・交易の窓口となっていました。江戸時代の琉球は、独立した一つの王国です。日本側の窓口は薩摩で、琉球漆器や砂糖などを輸入し、莫大な利益を得ました。対馬・長崎・松前・薩摩は「四つの口」と呼ばれ、海外の文物や情報がもたらされる窓口となっていました。江戸時代の外交体制は「鎖国」と言われますが、海外との交流を完全に遮断するものではなく、幕府が外交・交易をコントロールするために制限したものという捉え方が適切です。



貢進船図・琉球船図
（東京国立博物館蔵）
出典：ColBase国立博物館所蔵品
統合検索システム



解答…（4）



**問題84**

「四つの口」に関連して、「通信の国」・「通商の国」の説明として正しいのはどれでしょうか？

(1)「通信の国」は、日本と正式な国交を結んでいない国のことである。
(2)「通信の国」からは、将軍の代替わりごとなどに、日本へ使節が派遣された。
(3)「通商の国」には、オランダと琉球がある。
(4)「通信の国」は、朝鮮国だけである。

**解説**　「通信」と聞くと、現在では情報やデータのやりとりをイメージしますが、「よしみを通じる」というふうに解釈されています。「通信の国」とは、単に貿易するだけの関係ではなく、国交を樹立した国ということを考えれば、朝鮮通信使と琉球使節を遣わした朝鮮・琉球の２国が該当すると思い至るでしょうか。オランダ商館長も江戸に赴いていますが、これはあくまで東インド会社と幕府との関係。オランダと日本の国どうしの関係ではありません。「四つの口」と呼ばれる外交の窓口ですが、その性格や成立背景には違いがあることは、江戸時代の「鎖国」を考える上でも重要です。

長崎出島の古写真
（明治５年頃／東京国立博物館蔵）
出典：ColBase国立博物館所蔵品
統合検索システム

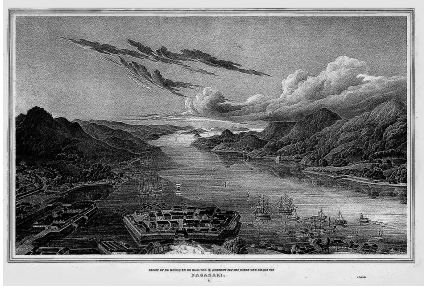
解答…（2）

**問題85**

江戸幕府の「鎖国」と呼ばれる海外政策が成立したのは何代将軍の時だったでしょうか？

(1) 初代 家康　　(2) 2代 秀忠
(3) 3代 家光　　(4) 4代 家綱

**解説**　一般的には三代将軍家光の時代、寛永16年(1639)のポルトガル船入港禁止から、嘉永7年(1854)の日米和親条約締結までの期間を「鎖国」と呼んでいます。ただ、「鎖国」という語は、江戸時代の蘭学者 志筑忠雄が、『鎖国論』(1801年)において初めて使用したもので、井伊直弼が「閉洋之御法」と表現していたように、国全体を閉ざすという意味合いではなかったとされています。実際、17世紀末には中国(清)とも交易が認められるようになり、琉球を通じて盛んに交易が行われました。またオランダ、朝鮮、アイヌとも交易を行い、四つの海外への窓口は保持しています。貿易上の管理と制限を行った対外政策と捉えるべきでしょう。



長崎湾出島の風景(シーボルトの著書「日本」より)



解答…(3)

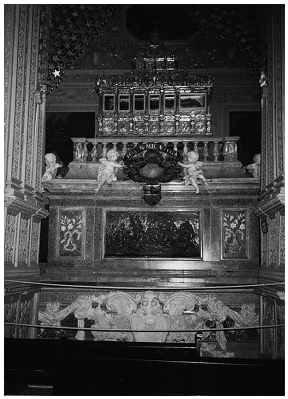


**問題86**

キリスト教の世界で聖人と敬われるフランシスコ・ザビエルは、天文21年(1552)、日本から中国へ向かう途中、本土を目前にして病没しました。その後、ザビエルの遺体はどうされたでしょうか？

(1) 亡くなった中国の上川島(中国広東省)で火葬された。
(2) ザビエルが生まれたスペインのハビエル城に移され埋葬された。
(3) 教会の総本山であるバチカンのサンピエトロ寺院に祀られた。
(4) インドのゴアの教会に移され、現在も10年に1度、公開されている。

**解説**　イエズス会のリーダーでもあったザビエルは、「東洋の使徒」、「世界保護の聖人」と仰がれています。これは、インド人に対する布教に重点をおき、インドの文化や習慣を尊重した上で現地民の暮らしに適応しながら布教活動を進めたからです。その後、日本に渡り、日本での布教から一旦インドに戻った翌年の1552年、中国に向かう途中、広東沖の上川島(サンショアン島)で病死しました。遺骸はゴアのボム・ジェズ教会にあり、10年に一度、棺の開帳が行われています。



ザビエルの遺体が安置された棺
(ゴアのボム・ジェズ教会／インド)

解答…(4)

**問題87**

秀吉の政策によって断絶した国交を、家康公が復活させた国はどこでしょうか？

(1) アメリカ　(2) 朝鮮
(3) 明　(4) ポルトガル

**解説**　秀吉の朝鮮出兵によって断絶した、明・朝鮮との関係回復は、天下人となった家康公にとって、喫緊の課題でした。両国からの報復を家康公は危惧しており、実際にその可能性もゼロではありませんでした。家康公は対馬を介して朝鮮と交渉を行い、慶長12年(1607)の回答兼刷還使の派遣に至って和平が果たされました。

一方で明とは、琉球を仲介としての交渉などを試みますが果たせず、ついには明が滅亡し、清に交代します。結局日本と中国は、江戸時代を通じて、私貿易による通商のみが行われました。

**豊臣秀吉定書(九州国立博物館蔵)**
出典：ColBase国立博物館所蔵品統合検索システム



解答…(2)



**問題88**

鞆の浦の福禅寺(広島県福山市)、牛窓の本蓮寺(岡山県瀬戸内市)とともに、朝鮮通信使遺跡として国の史跡に指定されている静岡県の寺院はどこでしょうか？

(1) 井伊谷の龍潭寺　(2) 興津の清見寺
(3) 吐月峰柴屋寺　(4) 法多山尊永寺

**解説**　清見寺は臨済宗妙心寺派の寺院で、今川時代には義元の軍師でもあった太原雪斎が住職を務めました。そのため、家康公の幼少時代(竹千代時代)には義元の庇護のもと、駿府の臨済寺と同様にこの寺でも雪斎から学問を学んだと伝えられています。家康公が江戸に幕府を開くと、三葉葵の紋を許され江戸時代265年の間、二百余石の朱印地を有し徳川一門の帰依を受けることになったのです。さらに東海道筋に立地していたことから、朝鮮通信使や琉球使節などの接待所としても使われ、その遺跡は国指定史跡となっています。

**清見寺仏殿(静岡市清水区興津)**

解答…(2)

**問題89**

朝鮮通信使と琉球使節に対する日本の対応で、誤っているのはどれでしょうか？

(1) 使節への無礼がないように、道中での民衆との面会や交流は一切禁止された。
(2) 使節が通行する際には、事前に道を掃き清めることなど、細かな達しが出された。
(3) 使節の宿泊所には、書画や漢詩を書いてもらうための紙の束が積まれるなど、各地で文化交流が図られた。
(4) 朝鮮通信使の行列を描いた浮世絵には、店先で飲食をしながら見物している人の姿も描かれている。

**解説** 朝鮮通信使・琉球使節は、江戸時代の日本の人びとには、外国を従えているかのように見せつけ、使節には日本の豊かさや幕府の支配が及んでいることを示すことで、幕府の威光をアピールするための一大プロジェクトでした。そのため幕府は、事前に細かな達しを出し、無礼が無いよう細心の注意を払いました。

一方で当時の日本の庶民にとっては、数少ない外国との直接の交流の機会であり、使節の滞在先には、使節との交流や書画の揮毫を求めて多くの人が訪れたため、使節は夜を徹して対応したとも記されています。

**朝鮮通信使人物図（東京国立博物館蔵）**
出典：ColBase国立博物館所蔵品統合検索システム



解答…（1）



**問題90**

家康公による日本外交の善隣友好と異文化尊重を示すものとして、平成29年（2017）に交流関連記録（資料）が「世界記憶遺産」に登録されたのは、次のうちどれでしょうか。

(1) アイヌの生活・祭礼用具
(2) 潜伏キリシタン
(3) 朝鮮通信使
(4) 琉球王国のグスク

**解説** 平成29年に、朝鮮通信使が世界記憶遺産として、日韓両国の記録111件333点が登録されました。記録は外交の記録、旅程の記録、文化交流の記録の３種類に分類され、日本側の記録は、朝鮮通信使の行程を辿るように、日本中に存在しています。

**正徳元年朝鮮通信使参着帰路行列図巻（九州国立博物館蔵）**
出典：ColBase国立博物館所蔵品統合検索システム

解答…（3）

**問題91**

江戸時代を通じて、琉球の支配を行ったのはどこでしょうか？

(1) 薩摩藩　　(2) 対馬藩
(3) 長崎奉行所　　(4) 松前藩

**解説**　慶長14年(1609)の薩摩藩の侵攻以後、琉球は江戸時代を通じて薩摩藩の支配を受けました。しかしその間も、琉球は独立した1つの王国として存立し、中国(明・清)とも冊封関係を持ち続けています。薩摩そして日本は、中国との軋轢を避け、さらに中国と日本との関係回復のために、琉球の独立と両属を黙認したとされます。

独立国琉球が日本に編入されたのは、明治に入ってからですが、そのルーツは、家康公が薩摩の琉球侵攻を認めたことに遡ります。琉球は明治12年(1879)の「琉球処分」以降は沖縄と呼ばれ、昭和20年(1945)、太平洋戦争の結果、アメリカの占領統治下に置かれました。そして昭和47年(1972)に日本復帰を果たし、2022年は、沖縄の日本復帰50周年の節目の年に当たります。

首里城(沖縄県那覇市)





**問題92**

家康公が金色の「金陀美具足」を着用したと伝わる戦いはどれでしょうか？

(1) 大高城の兵糧入れ(桶狭間の戦い)
(2) 姉川の戦い
(3) 三方ヶ原の戦い
(4) 関ヶ原の戦い

**解説**　元康(家康公)が桶狭間の敗戦から岡崎城に戻り、自立のきっかけとなった永禄3年(1560)当時に着用していた具足が「金陀美具足」です。別名を「大高城兵糧入れ具足」と呼んでいますが、家康公が困難に打ち勝ち、戦国大名への足掛かりとなった開運の鎧として、江戸時代を通じて江戸城大名溜りの間に展示してあったといわれます。具足は全体に金泥の溜塗りが施され、兜は日根野形兜で前立はありません。また胴も仏胴と呼ばれる、二枚の鉄板を前後に合わせたもので、至って実践的な造りになっているのが特徴です。若い家康公の躍動感が伝わってくる具足です。

「金陀美具足」レプリカ
(三河武士のやかた家康館蔵／岡崎市)
※本物は久能山東照宮蔵

**問題93**

松平家の代々の家老の家柄に生まれ、三河家臣団の筆頭と称され、家康公の義理の叔父にもあたる家臣は誰でしょうか？

(1) 石川家成　(2) 大久保忠員
(3) 酒井忠次　(4) 本多重次

**解説**　酒井氏はその先祖が松平初代親氏の子であると伝えられています(広親)。同時に、松平家中における最古参の家臣でもあり、忠次も松平氏とは深い血縁関係にありました。正室の碓井姫は家康公の祖父 松平清康と華陽院(法名)の娘であり、家康公の母 於大の義妹となります。忠次は家康公にとっては義理の叔父という関係にありました。年齢も15歳年長であり、家臣たちをまとめる立場にあったことは言うまでもありません。家康公の三河統一期には、東三河の旗頭として吉田城主となりました。以後、家康公の数々の戦いに活躍、長篠の合戦では勝利に直結する「鳶ヶ巣砦」の急襲が有名です。隠居後は秀吉から京都に屋敷を拝領し、その地で没しました。

錦絵浜松城の「酒井の太鼓」(明治時代)



解答…(3)



**問題94**

家康公の家臣で、名槍「蜻蛉切」と鹿角の兜で知られ、生涯57度の戦に臨み、一度も刀傷を負わなかったと伝わる勇士は誰でしょうか？

(1) 井伊直政　(2) 大久保忠世
(3) 榊原康政　(4) 本多忠勝

**解説**　本多氏は松平氏の古くからの譜代家臣で、忠勝は三河国西蔵前(岡崎市)の生まれです。幼名は平八郎、幼い時に父を安城の合戦で亡くし、叔父の忠眞に育てられたと伝わります。永禄3年(1560)、13歳の時に家康公の大高城兵糧入れに従ったのを初陣に数多くの合戦に参加、一度も手傷を負わなかったことで有名です。その勇猛ぶりは、三方ヶ原戦役の前哨戦「一言坂の合戦」で発揮され、武田の家臣に「家康に過ぎたるものが二つあり、唐の頭に本多平八」と謳われるほどでした。信長からは「花実兼備の勇将」と、秀吉からも「古今無双の勇士」と称えられ、家康公の関東移封時には上総大多喜城10万石を拝領します。関ヶ原合戦後には伊勢桑名に移封されこの地で亡くなりました。

本多忠勝像
(岡崎公園／岡崎市)

解答…(4)

**問題95**

「伊賀の半蔵」の名で知られ、後年、本や映画などで伊賀忍者の代表のように扱われることが多い家康公の家臣は誰でしょうか？

(1) 高力清長　(2) 服部正成
(3) 柳生宗矩　(4) 渡辺守綱

**解説**　服部半蔵正成はれっきとした三河生まれの武士であり、もともと忍者ではありません。若い頃から家康公に従い、「鬼の半蔵」の異名で知られたとも伝わります。一躍有名になったのが、本能寺の変の後の「伊賀越え」です。「伊賀者」たちを集めて家康公一行を守りながら、無事、伊勢国まで送り届けたということですが、そのような事実は史料にはなく、伊賀の在地の武士たちが協力して家康公一行を助け、この者たちが後に半蔵の与力として召し抱えられたのです。家康公が江戸に幕府を開くと、将軍を守る側近として江戸城の門付近に屋敷地を拝領し居住しました。この門を「半蔵門」と呼んでいます。与力たちも甲州街道沿いに屋敷を持ち、将軍を守る役目を果たしたと伝えられます。

服部正成墓
（西念寺／東京都新宿区）



解答…（2）



**問題96**

家康公が勅許（朝廷の許可）を得て、姓を松平から徳川に改姓（復姓）し、徳川家康を名乗ったのは何歳のときでしょうか？

(1) 岡崎城に戻り、今川家から独立した19歳のとき
(2) 三河を統一し、三河守の官職を得た25歳のとき
(3) 信長に従って初めて京都に上洛した29歳のとき
(4) 征夷大将軍に任じられ幕府を開いた62歳のとき

**解説**　家康公は、岡崎に帰還した当時は「元康」と名乗っていました。その後、今川氏からの独立を決意し、名を「家康」と改めます。家の一字は源氏の棟梁であった八幡太郎源義家の家の字を付したとされています。さらに三河一向一揆を鎮圧し、東三河の平定を成し遂げ、三河一国の大名としての力を有したということで、正式な官位を朝廷から賜ったのです。「従五位下三河守」、これは律令制で定められた正式な国司としての官職名でもありました。この時、家康公25歳、「徳川家康」誕生の歳です。

徳川家康公像（岡崎市）
25歳の家康公をイメージしています。

解答…（2）

**問題97**

家康公の浜松時代に起きた出来事ではないのはどれでしょうか？

(1) 小牧・長久手の戦い　(2) 関ヶ原の戦い
(3) 高天神城の戦い　(4) 長篠・設楽原の戦い

**解説**　家康公の浜松時代は、浜松城を築城した元亀元年(1570)から、天正14年(1586)に秀吉に臣従し駿府へ移るまでの17年間を指します。年齢で言えば29歳から45歳まで、正に青壮年期を浜松で過ごしたことになります。この間は戦国大名として成長しようとする家康公にとって苦難の連続でした。特に長年にわたる武田氏との戦いは、常に生死を賭けた戦いであり、三方ヶ原の合戦では多くの家臣たちを失いました。また信長の死後は台頭する羽柴秀吉との争いがあり、一つ間違えば、後の北条氏などと同じように滅亡する危険性をはらんでいたのです。秀吉の死後、江戸に移っていた家康公は関ヶ原の合戦で遂に天下平定の大業を成し遂げました。

浜松時代の家康公像(浜松城公園／浜松市)



解答…(2)



**問題98**

家康公の九男、十男、十一男から続く家を徳川御三家と言いますが、次の中で御三家に入らないのはどの家でしょうか？

(1) 尾張徳川家　(2) 紀伊徳川家
(3) 甲府徳川家　(4) 水戸徳川家

**解説**　徳川御三家とは、家康公の子、九男義直の「尾張徳川家」、十男頼宣の「紀州徳川家」、十一男頼房の「水戸徳川家」です。このうち「尾張家」と「紀州家」からは、将軍家に跡継ぎが無いときに養子を出すことが出来ましたが、「水戸家」については許されていませんでした。代わりに常に副将軍として江戸城で将軍を補佐できる立場にありました。徳川光圀や斉昭らが有名です。「甲府徳川家」とは四代将軍 家綱の弟で甲府城主となった綱重とその子 綱豊を指します。後に綱豊は五代将軍 綱吉の養子となって家宣を名乗り、六代将軍を継承しています。

甲府城跡(舞鶴城公園／山梨県甲府市)

解答…(3)

**問題99**

今年、令和４年は、家康公が生まれた天文11年と同じ干支です。60年に一度巡ってくる家康公の干支は何でしょうか？

（1）甲子　　（2）丙辰
（3）壬寅　　（4）癸卯

**解説**　干支と言うのは、正しくは「十干十二支」のことを指します。十干というのは甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の総称です。陰陽五行の木・火・土・金・水と結びつけて、それぞれに兄と弟を当て、甲（木ノ兄）・乙（木ノ弟）・丙（火ノ兄）・丁（火ノ弟）・戊（土ノ兄）・己（土ノ弟）・庚（金ノ兄）・辛（金ノ弟）・壬（水ノ兄）・癸（水ノ弟）と読ませます。十二支と組み合わせて年や日の表示などに用いています。家康公が生まれたのは1542年、この年は「壬寅」です。次にこの壬寅がやってくるのが60年後、つまり還暦となるわけです。今年（2022年）は壬寅の年、家康公８回目の還暦を迎える年です。

十二支の守護神、中央が寅年の守護神
「真達羅大将」（鳳来寺薬師堂／愛知県新城市）



解答…（3）



**問題100**

今年、令和４年（2022）の12月26日、家康公は満何歳の誕生日を迎えるでしょうか？

（1）430年　　（2）480年
（3）530年　　（4）580年

**解説**　前問で解説したとおり、家康公は今年で８回目の還暦、つまり480歳を迎えることになります。壬寅の年は60年に一度しか巡って来ないわけですから、今年は特別な年となるわけです。「家康公に学ぶ会」では、「家康公検定」をはじめ各種講演会やシンポジウムなどに「生誕480年記念」の冠を付けています。これを機会に家康公に関する興味や関心を高め、学びを深め、来る大河ドラマも大いに興味を持って視聴したいものです。

解答…（2）